食を通した子育て支援の観点を活かした保育所保育に関する研究
～父親が発信者となる家庭での食育を焦点に～

研究代表者　酒井　治子（東京家政学院大学　准教授）
共同研究者　菊地　恵子（たいとうこども園　園長）
岡林　一枝（児童育成協会）
林　　薫（白梅学園大学　准教授）
藤澤　良知（実践女子大学　名誉教授）

研究の概要

本研究の目的は、保育園児の保護者、特に父親に焦点をあてつつ、子育て支援の観点から、家庭での子どもの食育への関わりを支える食育プログラムの開発に向けて、そのニーズを解明することである。平成23年社会生活基礎調査の結果、夫の育児時間の違いにより、４地域（多い順に、島根県、東京都、神奈川県、和歌山県）、各２保育所、計８か所の園児の約1027家庭（保護者各１人）である。家庭での留め置き法にて質問紙調査を平成27年10月に実施し、園で回収した。回収できた家庭は609家庭、1286人で、その内、性別等の無記入であった者を除く有効回答は1264人であった。

その結果、父親は母親に比べて次のような特徴が明らかになった（ひとり親家族を除く）。父親は子育てへのかかわりは少ないものの、子育てを楽しいものとして捉え、母親以上に子どもへの接し方・関わり方に自信があることが明らかになった。父親が関わっている内容として上位にあげられたのは「子どもを褒める」「お風呂に入れる」「子どもと室外で遊ぶ」「保育所の行事に参加する」で父親の８割が関わっていたが、「病気の時に面倒をみる」「保育園への送り迎えをする」「子どもを寝かしつける」「食事を食べさせる」は６割以下に留まった。

「食」に関しては、子どもと一緒に食事を食べたり、買い物をする等の食行動・食態度が消極的であり、特に食事のメニューをリクエストしたり、食べ物を話題にしたり、保育所の献立表を見る等をしている人は多くなかった。また、子どもの食発達、食事援助の方法、食事構成への理解や、食事づくり行動に対する自信もかなり低かった。

保育所の食育として希望が多かった内容は「食べ物を育てて収穫する」ことであり、それ以外にも「食に関する情報をもらう」「親子で調理体験をする」は６割以上の父親から、「給食の試食会」も半数以上の父親から希望が寄せられた。食育に最も関心が高いのは子どもが３歳未満の時期であり、その時点での支援が有効である可能性が高いことが明らかになった。

父親にとって、子育てを楽しむ場として、「親子で食べ物を育てたり、収穫する」「親子で調理体験する」「子どもの食について話し合う」ことがそのきっかけとなること、また、子どもへの接し方、関わり方への自信を高めるために「親同士で子どもの食について話し合う」「母乳・離乳食・幼児食等に関する講座を受ける」等が有効である可能性が示唆された。一方、食育との関連性が高かった内容としては「親子で調理体験する」「親同士で子どもの食について話し合う」「子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する」ことがあげられた。

今現在の子育て世代は、父親の子育て態度や、父親が食事を作るなどの姿に接する機会が少なく、父親が子育てや食事作りに係わるモデルが想像できないとも考えられる。従って、保育所が持っている資源を活かし、身近で継続的で、具体的なノウハウを習得する場として保育所が拠点となった支援が期待される。

キーワード：保育所、父親、食育、子育て支援

Ⅰ．はじめに

少子高齢化社会の進行に伴い、さまざまな少子化対策が講じられている。乳幼児期の保育・教育、地域の子ども・子育て支援を総合的に進める新しい仕組みとして、平成24年８月にいわゆる「子ども・子育て関連３法」が成立し、これらの法律に基づき、平成27年４月から「子ども・子育て支援新制度」が施行された。新制度では、各市町村が様々な子ども・子育て家庭の状況や各事業の利用状況・利用希望を把握し、子ども・子育て支援事業計画を策定するとともに、計画に基づき事業を実施することになっている。保育所や認定こども園も子どもの保

育とともに、保護者に対する子育て支援の重要な拠点とされる。

日本の家庭においては“父親不在”といわれる[1]ほど、子育てや家事に父親が関与しない状態が続いてきたといわれる。しかしその一方で、近年、“育メン”という言葉に表現されるように、政府や世論は父親の育児を推奨する流れにあるようにみえる。

家庭での育児の実態をみてみると、ベネッセ教育総合研究所が2005年から継続的に行っている「乳幼児の父親に関する調査[2]」では、「家事・育児に関わりたい」と思う父親が増加しているものの、その実態にはあまり変化がない事が報告されている。その理由として、父親の帰宅時間が遅いこと、子どもとの関わり方に自信が持てない事が指摘されており、女性も男性も、仕事と家庭を両立できるようなワーク・ライフ・バランスを進めていくことができているとはいえない現状にある。具体的な父親の育児参加の内容は「遊び」が中心であり、「食事づくり」は年々かかわりが増加しているものの、他に比べると、決して多いとはいえない。親の体験活動の不足、他者とのかかわりが希薄化しがちな環境の中では、食に関しても知識も不足し、スキルも向上しにくく、保護者にとって「食」は日常的に頻度が高く、そのかかわりの成果が「子どもが食べない」という形で表出することは子育てへの自信をなくすことにつながっているものと考えられる。

一方、地域で展開される子育て支援プログラムの多くは母親が対象とされてきた。青野[3]はこうした傾向は母親育児を再生産することになりかねないため、男性の子育て支援を進めるための施策やプログラムも必要であると述べる。国の施策としても、男性の育児参加を推進するため、育児中の父親向けサークルの育成や啓発講座の開催を支援する「子育てパパ応援事業」が2007年から展開されてきている。

父親の子育て支援事業に関する研究報告は少ない。金山[4),5)]や鈴木[6)]が子育て支援センターを利用する父親について調査報告によれば、父親は休日で利用が多く、父親が参加しやすい、父親専用のプログラムがあると、遊びや子育てに関する情報を得ることができたり、他の父親との交流ができたりすることが指摘されている。保育現場でも「おやじの会」などと称される保護者の会で父親が企画の中心となった活動が実施されているが、その成果についての研究報告は多くない。

こうした背景の中で、酒井・林らは、親子双方にとっての豊かな「食」をめざし、食を通したふれあい、分かちあい、学びあい、支えあいの観点から、保育所が拠点となった食を通した子育て支援に注目してきている[7)]。父親が自信を持って主体的に育児に参加できる実現可能なプログラムの提供が近々の課題と考えられる。

保育所での保護者に対する支援は、保育所保育指針[8)]が示すように、保育所が持つ人的資源、物的資源を有効に利用するべきである。そうした観点から考えると、「保育所が拠点となった食を通した子育て支援」としては、当然、保育所の自園調理形式での食事提供の長所を活用したものであること、保育士とともに、栄養士や調理員等の人的資源も有効なものとして活用し、園としての教育力を総合的に向上させることが期待される。さらに、そうした活動を家庭の中に還流させることにより、子ども自身の育ちを支えるだけでなく、同時に保護者が意欲を持って生き生きと子育てし続ける力、そして生き生きと生活していく力を育むことを目指したい。その成果として、父親自身も食により関心を持ち、家庭全体を、さらに、地域をリードしていくことが期待されるところである。

そこで、本研究では、保育園児の保護者、特に父親に焦点をあてつつ、子育て支援の観点からの保育所を拠点とした食育プログラムの開発に向けて、次の点を明らかにすることを目的とする。具体的には、親の育児・食行動、親の食知識と食・育児態度、さらに、保育園の食育プログラムに対するニーズを解明することとした。

Ⅱ．方法

平成23年社会生活基礎調査の結果、夫の育児時間の違いにより、４地域（多い順に、島根県、東京都、神奈川県、和歌山県）、各２保育所、計８か所の園児の1027家庭である。

家庭での留め置き法にて質問紙調査を平成27年10～11月に実施した。質問紙には、調査の目的と内容、対象者の権利保護、研究以外でのデータを用いないこと、個人情報の保護について、文書で説明を行い、賛同し、同意書を得ることができた者を対象とした。記入された調査票は配布した封筒に封印し、園にて回収を行った。

回収できた家庭は609家庭であり、59.3％の回収率であった。園により回収率も41.7％から97.9％と、差がみられた。回答者は1286名の保護者となり、その内、性別等の無記入であった者を除く有効回答は1264名であった。有効回答者の内、ひとり親は和歌山県の園で8.1％と多く、東京都の園で4.8％、島根県の園で2.9％、神奈川県の園で6.9％あり、地域差がみられた。回収できなかった保護者の中にひとり親家族がどのぐらい含まれるのかは明らかにできなかった。

調査内容は、次の通りである。１．対象者の属性として、回答者の園児の年齢、年齢（親）、家族形態、保育時間、勤務形態、出勤・帰宅時刻、子育て支援者の有無、２．QOLとして子育てに対する楽しみ、３．子どもの食行動、４．親の食・育児行動として、育児行動（育児への自己評価、パートナーの育児への評価、育児への意欲、育児参加の頻度）、家庭での親の食行動（食事のあいさつ、食事づくり行動（買い物行動・調理行動・後片付け行動）、子どもとの朝・夕食の共食、朝食・夕食時

刻)、食情報の受発信)、５．親の食知識・食・育児態度(親の食への関心、子どもの食具使用への関心、食事づくりの負担感、食事づくりの負担感の背景、妊娠時の育児参加意欲、自分の父親の育児参加度、自分の父親の食事づくり参加度、お子さんへの接し方・関わり方への自信、お子さんの食事作りへの自信、親同士の繋がりの必要性、親同士の繋がりの現状)、６．保育所に期待する食育プログラムへのニーズ（食を通した親子の交流の場の提供への要望、子どもの食に関する相談・援助への要望、食に関する講習などの実施や情報提供への要望、食育活動への利用者の主体的な参画への要望等）である。

解析は､親の育児・食行動の特徴､親の食知識と育児・食態度、保育所での食育プログラムへのニーズを父親と母親で比較し、子育て支援の成果、食育の成果と、食育プログラムへのニーズとの関連を検討した。

倫理的配慮については、日本保育協会保育科学研究所倫理委員会にて承認を受けた。対象者には、調査は保育と無関係で、協力するか否かにおいて不利益を生じないこと、無記名であること、調査結果は統計的な処理を行い、個人を特定できる表記はしないことを文書で説明した。

Ⅲ．結果

１．対象者の属性

１）世代（表１）

回答者の世代は、両親の場合、30代が最も多く、父親の56.9%、母親の63.1%、40代が父親の28.9%、母親の21.8%、20代が父親の12.4%、母親の15.2%を占め、母親の世代が低かった。またひとり親の場合、30代が最も多く、父親の50.0%、母親の47.4%、40代が父親の25.0%、母親の19.7%、20代が父親の25.0%、母親の32.0%を占め、父親と母親とで世代の違いはみられなかった。ひとり親の方が親の年代が低かった。

２）勤務形態（表２、表３）

家庭状況が両親の場合、フルタイムは父親の97.5%、母親の53.7%、パートタイムは父親が0.7%、母親が33.6%と、違いが大きかった。ひとり親の場合、フルタイムは父親の100%、母親の53.9%、パートタイムは父親が0%、母親が36.8%であった。母親のみ、地域別にみると、両親の場合、東京の園ではフルタイムの割合が高かった。

３）子育て支援者（表４）

家庭状況が両親の場合、夫婦以外の子育て支援者がいる親は約８割であったが、ひとり親の場合、父子家族では100%、母子家族では89.3%と、主に祖父母や親の兄弟からの支援を受けていた。

４）子どもの人数と年齢構成（表５、表６）

子どもの人数は両親家族の場合にはいずれも約59%が１人、33%が２人であった。ひとり親の場合には、１人が77.5%と多かった。年齢構成について、人数にかかわらず、０歳児、１・２歳児、３歳以上児がいるか否かで分析すると､両親の場合、３歳以上児のみが47.1%、１・２歳児が23.3%、１・２歳児と３歳以上児が21.2%と多かった。ひとり親の場合には３歳児以上児が72.2%と多かった。

表１　家族形態別　両親の年代

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
10代	度数	0	0	0	0.000	0	1	1	0.983
	回答者 の %	0.0%	0.0%	0.0%		0.0%	1.3%	1.3%	
	調整済み残差					−0.2	0.2		
20代	度数	69	94	163		1	24	25	
	回答者 の %	12.4%	15.2%	13.8%		25.0%	32%	31.3%	
	調整済み残差	−1.4	1.4			−0.3	0.3		
30代	度数	317	391	708		2	36	38	
	回答者 の %	56.9%	63.1%	60.2%		50.0%	47.4%	47.5%	
	調整済み残差	−2.2	2.2			0.1	−0.1		
40代	度数	161	135	296		1	15	16	
	回答者 の %	28.9%	21.8%	25.1%		25.0%	19.7%	20.0%	
	調整済み残差	2.8	−2.8			0.3	−0.3		
50代以上	度数	10	0	10		0	0	0	
	回答者 の %	1.8%	0.0%	0.8%		0.0%	0.0%	0.0%	
	調整済み残差	3.4	−3.4						
合計	度数	557	620	1177		4	76	80	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表２　家族形態別　両親の勤務形態

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
フルタイム	度数	539	328	867	0.000	4	41	45	0.351
	回答者 の %	97.3%	53.7%	74.4%		100.0%	53.9%	56.3%	
	調整済み残差	17.0	−17.0			1.8	−1.8		
パートタイム	度数	4	205	209		0	28	28	
	回答者 の %	0.7%	33.6%	17.9%		0.0%	36.8%	35.0%	
	調整済み残差	−14.6	14.6			−1.5	1.5		
育児介護休暇中	度数	1	55	56		0	0	0	
	回答者 の %	0.2%	9.0%	4.8%		0.0%	0.0%	0.0%	
	調整済み残差	−7.0	7.0						
働いていない	度数	3	12	15		0	4	4	
	回答者 の %	0.5%	2.0%	1.3%		0.0%	5.3%	5.0%	
	調整済み残差	−2.2	2.2			−.5	.5		
その他	度数	7	11	18		0	3	3	
	回答者 の %	1.3%	1.8%	1.5%		0.0%	3.9%	3.8%	
	調整済み残差	−.7	.7			−.4	.4		
合計	度数	554	611	1165		4	76	80	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表３　地域別　母親の勤務形態

		両親					χ^2検定	ひとり親					χ^2検定
		島根県	東京都	神奈川県	和歌山県	合計	P値	島根県	東京都	神奈川県	和歌山県	合計	P値
フルタイム	度数	55	65	91	117	328	0.000	3	6	10	22	41	0.866
	地域 の %	45.5%	79.3%	50.8%	51.1%	53.7%		42.9%	75.0%	45.5%	56.4%	53.9%	
	調整済み残差	−2.0	5.0	−0.9	−1.0			−0.6	1.3	−0.9	0.4		
パートタイム	度数	48	8	60	89	205		4	2	9	13	28	
	地域 の %	39.7%	9.8%	33.5%	38.9%	33.6%		57.1%	25.0%	40.9%	33.3%	36.8%	
	調整済み残差	1.6	−4.9	0.0	2.2			1.2	−0.7	0.5	−0.7		
育児介護休暇中	度数	13	9	16	17	55		0	0	0	0	0	
	地域 の %	10.7%	11.0%	8.9%	7.4%	9.0%		0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	調整済み残差	0.7	0.7	0.0	−1.1								
働いていない	度数	2	0	7	3	12		0	0	2	2	4	
	地域 の %	1.7%	0.0%	3.9%	1.3%	2.0%		0.0%	0.0%	9.1%	5.1%	5.3%	
	調整済み残差	−0.3	−1.4	2.2	−0.9			−0.7	−0.7	1.0	−0.1		
その他	度数	3	0	5	3	11		0	0	1	2	3	
	地域 の %	2.5%	0.0%	2.8%	1.3%	1.8%		0.0%	0.0%	4.5%	5.1%	3.9%	
	調整済み残差	0.6	−1.3	1.2	−0.7			−0.6	−0.6	0.2	0.5		
合計	度数	121	82	179	229	611		7	8	22	39	76	
	地域 の %	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

表４　家族形態別　夫婦以外の子育て支援者の有無

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
いる	度数	432	487	919	0.77	4	67	71	1.000
	回答者 の %	79. 3%	80. 0%	79. 6%		100. 0%	89. 3%	89. 9%	
	調整済み残差	−0. 3	0. 3			0. 7	−0. 7		
いない	度数	113	122	235		0	8	8	
	回答者 の %	20. 7%	20. 0%	20. 4%		0. 0%	10. 7%	10. 1%	
	調整済み残差	0. 3	−0. 3			−0. 7	0. 7		
合計	度数	545	609	1154		4	75	79	
	回答者 の %	100. 0%	100. 0%	100. 0%		100. 0%	100. 0%	100. 0%	

表５　家族形態別　子どもの人数

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
１人	度数	332	368	700	0.989	3	59	62	0.84
	回答者 の %	59. 2%	59. 1%	59. 1%		75. 0%	77. 6%	77. 5%	
	調整済み残差	0. 0	0. 0			−0. 1	0. 1		
２人	度数	182	204	386		1	13	14	
	回答者 の %	32. 4%	32. 7%	32. 6%		25. 0%	17. 1%	17. 5%	
	調整済み残差	−0. 1	0. 1			0. 4	−0. 4		
３人以上	度数	47	51	98		0	4	4	
	回答者 の %	8. 4%	8. 2%	8. 3%		0. 0%	5. 3%	5. 0%	
	調整済み残差	0. 1	−0. 1			−0. 5	0. 5		
合計	度数	561	623	1184		4	76	80	
	回答者 の %	100. 0%	100. 0%	100. 0%		100. 0%	100. 0%	100. 0%	

表６　家族形態別　子どもの年齢構成

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
０歳児	度数	7	9	16	0. 999	0	1	1	0. 938
	回答者 の %	1. 3%	1. 5%	1. 4%		0. 0%	1. 3%	1. 3%	
	調整済み残差	−0. 3	0. 3			−0. 2	0. 2		
１・２歳児	度数	128	137	265		1	11	12	
	回答者 の %	23. 3%	22. 3%	22. 8%		25. 0%	14. 7%	15. 2%	
	調整済み残差	0. 4	−0. 4			0. 6	−0. 6		
０歳児と１・２歳児	度数	10	12	22					
	回答者 の %	1. 8%	2. 0%	1. 9%					
	調整済み残差	−0. 2	0. 2						
３歳以上児	度数	259	294	553		3	54	57	
	回答者 の %	47. 1%	48. 0%	47. 5%		75. 0%	72. 0%	72. 2%	
	調整済み残差	−0. 3	0. 3			0. 1	−0. 1		
０歳児と３歳以上児	度数	24	25	49					
	回答者 の %	4. 4%	4. 1%	4. 2%					
	調整済み残差	0. 2	−0. 2						
１・２歳児と３歳以上児	度数	116	130	246		0	8	8	
	回答者 の %	21. 1%	21. 2%	21. 2%		0. 0%	10. 7%	10. 1%	
	調整済み残差	0. 0	0. 0			−0. 7	0. 7		
０歳児と１・２歳児と３歳以上児	度数	6	6	12		0	1	1	
	回答者 の %	1. 1%	1. 0%	1. 0%		0. 0%	1. 3%	1. 3%	
	調整済み残差	0. 2	−0. 2			−0. 2	0. 2		
合計	度数	550	613	1163		4	75	79	
	回答者 の %	100. 0%	100. 0%	100. 0%		100. 0%	100. 0%	100. 0%	

人数は１名以上

２．親の育児・食行動

１）育児行動

①子育ての楽しさ（QOL）（表７）

「あなた自身は子育てが楽しいですか」という問いに対し、両親の場合、父親の93.0%、母親の89.2%が「とても楽しい」「楽しい」と回答した。「どちらでもない」と回答したのは、父親が6.8%、母親が10.1%であった。「あまり楽しくない」と回答したのは、父親が2%、母親が6%と、父親の方が子育てを楽しいものとして捉えていた。ひとり親の場合、父親の75.0%、母親の90.8%が「とても楽しい」「楽しい」と回答した。「どちらでもない」と回答したのは、父親が25.0%、母親が9.2%と、差はみられなかった。父親の方が子育てに対して楽しいと感じている割合が高いことがわかった。

②子育てへの自己評価（表８）

「あなた自身はどのくらい子育てに関わっていると思いますか」という問いに対し、家庭状況が両親の場合、父親の80.2%、母親の98.6%が「とても関わっている」「関わっている」と回答した。「あまり関わっていない」と回答したのは父親が9.5%、母親が0.2%と、母親の方が子育てにとても関わっていると自己評価していた。一方、ひとり親の場合、父親の75.0%、母親の97.4%が「とても関わっている」「関わっている」と回答した。「どちらでもない」と回答したのは父親が25.0%、母親が2.6%であった。

表７　家族形態別　子育ての楽しさ

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
とても楽しい	度数	232	209	441	0.011	2	23	25	0.327
	回答者 の %	41.4%	33.5%	37.3%		50.0%	30.3%	31.3%	
	調整済み残差	2.8	−2.8			0.8	−0.8		
楽しい	度数	289	347	636		1	46	47	
	回答者 の %	51.6%	55.7%	53.8%		25.0%	60.5%	58.8%	
	調整済み残差	−1.4	1.4			−1.4	1.4		
どちらでもない	度数	38	63	101		1	7	8	
	回答者 の %	6.8%	10.1%	8.5%		25.0%	9.2%	10.0%	
	調整済み残差	−2.0	2.0			1.0	−1.0		
あまり楽しくない	度数	1	4	5		0	0	0	
	回答者 の %	.2%	.6%	.4%		0.0%	0.0%	0.0%	
	調整済み残差	−1.2	1.2						
合計	度数	560	623	1183		4	76	80	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表８　家族形態別　子育てへの自己評価

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
とても関わっている	度数	98	487	585	0.000	1	55	56	0.027
	回答者 の %	17.5%	78.2%	49.5%		25.0%	72.4%	70.0%	
	調整済み残差	−20.8	20.8			−2.0	2.0		
関わっている	度数	351	127	478		2	19	21	
	回答者 の %	62.7%	20.4%	40.4%		50.0%	25.0%	26.3%	
	調整済み残差	14.8	−14.8			1.1	−1.1		
どちらでもない	度数	56	8	64		1	2	3	
	回答者 の %	10.0%	1.3%	5.4%		25.0%	2.6%	3.8%	
	調整済み残差	6.6	−6.6			2.3	−2.3		
あまり関わっていない	度数	53	1	54		0	0	0	
	回答者 の %	9.5%	0.2%	4.6%		0.0%	0.0%	0.0%	
	調整済み残差	7.7	−7.7						
関わっていない	度数	2	0	2		0	0	0	
	回答者 の %	0.4%	0.0%	0.2%		0.0%	0.0%	0.0%	
	調整済み残差	1.5	−1.5						
合計	度数	560	623	1183		4	76	80	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

③子育ての相談相手としてのパートナーへの評価（表９）

「パートナーはよく子育ての相談にのってくれますか」という問いに対し、家庭状況が両親の場合、父親の88.5％、母親の86.1％が「とてもそう思う」「そう思う」と回答した。「どちらでもない」と回答したのは、父親が9.8％、母親が9.5％であった。「あまり思わない」と回答したのは、父親が0.9％、母親が5.6％、「思わない」と回答したのは、父親が0.7％、母親が2.7％と、母親は父親に比べ、パートナーが相談にのってくれていないと評価していることが明らかになった。

④今後の子育て（家事）への意欲（表10）

「子育てや家事に今以上に関わりたいと思いますか」という問いに対し、家庭状況が両親の場合、父親の73.5％、母親の66.2％が「とてもそう思う」「そう思う」と回答した。「どちらでもない」と回答したのは、父親が21.4％、母親が22.0％であった。「あまり思わない」と回答したのは、父親が3.0％、母親が9.6％、「思わない」と回答したのは、父親が1.8％、母親が2.3％と、母親の意欲が低いことが気になる。

また家庭状況がひとり親の場合、父親の75.0％、母親の78.7％が「とてもそう思う」「そう思う」と回答した。「どちらでもない」と回答したのは、父親が25.0％、母親が16.0％であった。「あまり思わない」と回答したのは、父親が0％、母親が4.0％、「思わない」と回答したのは、父親が0％、母親が1.3％であった。

表９　家族形態別　子育ての相談相手としてのパートナー評価（ひとり親家族を除く）

		回答者		
		父親	母親	合計
とてもそう思う	度数	255	210	465
	回答者 の %	45.6%	33.8%	39.4%
	調整済み残差	4.1	−4.1	
そう思う	度数	240	300	540
	回答者 の %	42.9%	48.3%	45.8%
	調整済み残差	−1.9	1.9	
どちらでもない	度数	55	59	114
	回答者 の %	9.8%	9.5%	9.7%
	調整済み残差	0.2	−0.2	
あまり思わない	度数	5	35	40
	回答者 の %	0.9%	5.6%	3.4%
	調整済み残差	−4.5	4.5	
思わない	度数	4	17	21
	回答者 の %	0.7%	2.7%	1.8%
	調整済み残差	−2.6	2.6	
合計	度数	559	621	1180
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%

表10　家族形態別　今後の子育て（家事）への意欲

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
とてもそう思う	度数	98	154	252	0.000	1	26	27	0.97
	回答者 の %	17.6%	25.0%	21.4%		25.0%	34.7%	34.2%	
	調整済み残差	−3.1	3.1			−0.4	0.4		
そう思う	度数	312	254	566		2	33	35	
	回答者 の %	55.9%	41.2%	48.2%		50.0%	44.0%	44.3%	
	調整済み残差	5.1	−5.1			0.2	−0.2		
どちらでもない	度数	121	136	257		1	12	13	
	回答者 の %	21.7%	22.0%	21.9%		25.0%	16.0%	16.5%	
	調整済み残差	−0.1	0.1			0.5	−0.5		
あまり思わない	度数	17	59	76		0	3	3	
	回答者 の %	3.0%	9.6%	6.5%		0.0%	4.0%	3.8%	
	調整済み残差	−4.5	4.5			−0.4	0.4		
思わない	度数	10	14	24		0	1	1	
	回答者 の %	1.8%	2.3%	2.0%		0.0%	1.3%	1.3%	
	調整済み残差	−0.6	0.6			−0.2	0.2		
合計	度数	558	617	1175		4	75	79	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

⑤育児の内容（表11）

両親家族で父親が関わっている内容として上位にあげられたのは「子どもを褒める」「お風呂に入れる」「子どもと室内で遊ぶ」「子どもを叱る」「子どもと室外で遊ぶ」「保育所の行事に参加する」の順で父親の８割が関わっていたが、「病気の時に面倒をみる」「保育園への送り迎えをする」「子どもを寝かしつける」「掃除をする」「食事を食べさせる」は６割以下に留まった。母親はほとんどの内容で80％以上を占めたが、「ごみを出す」「おむつを替える」は低率であった。ひとり親の場合、両親の場合に比べて、父親は子どもとの関わりが多く、反対に、母親は多くの項目で関わりが少なく、子育て支援者に委ねていた。

２）親の食行動

①「いただきます」の挨拶行動（表12）

「いただきます」の頻度は、家庭状況が両親の場合、父親の67.0％、母親の83.3％が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が13.0％、母親が8.3％であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が8.0％、母親が3.5％、「月に２・３回」と回答したのは、父親が2.5％、母親が1.3％であった。「ほとん

どしない」と回答したのは、父親が9.5%、母親が3.5%であった。一方、ひとり親の場合、父親の75.0%、母親の92.1%が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が25.0%、母親が2.6%であった。「月に２・３回」との回答は、父親が0%、母親が2.6%であった。「ほとんどしない」との回答は、父親が0%、母親が5.0%であった。共に、母親が高率であった。

表11　家族形態別　育児の内容

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
①着替えをさせる	度数	370	555	925	0.000	4	56	60	0.567
	回答者 の %	66.2%	89.1%	78.3%		100.0%	73.7%	75.0%	
	調整済み残差	−9.5	9.5			1.2	−1.2		
②おむつを替える	度数	313	411	724	0.001	2	30	32	1.000
	回答者 の %	56.0%	66.0%	61.3%		50.0%	39.5%	40.0%	
	調整済み残差	−3.5	3.5			0.4	−0.4		
③食事を食べさせる	度数	330	566	896	0.000	2	18	20	0.000
	回答者 の %	59.0%	91.0%	75.9%		50.0%	23.7%	25.0%	
	調整済み残差	−12.8	12.8			1.2	−1.2		
④掃除をする	度数	268	589	857	0.000	3	68	71	0.386
	回答者 の %	47.9%	94.5%	72.5%		75.0%	89.5%	88.8%	
	調整済み残差	−17.9	17.9			−0.9	0.9		
⑤子どもと室外で遊ぶ	度数	423	501	924	0.057	4	67	71	1.000
	回答者 の %	75.7%	80.4%	78.2%		100.0%	88.2%	88.8%	
	調整済み残差	−2.0	2.0			0.7	−0.7		
⑥子どもと室内で遊ぶ	度数	457	572	1029	0.000	4	70	74	1.000
	回答者 の %	81.8%	91.8%	87.1%		100.0%	92.1%	92.5%	
	調整済み残差	−5.1	5.1			0.6	−0.6		
⑦風呂に入れる	度数	457	565	1022	0.000	4	70	74	1.000
	回答者 の %	81.9%	90.8%	86.6%		100.0%	92.1%	92.5%	
	調整済み残差	−4.5	4.5			0.6	−0.6		
⑧子どもを叱る	度数	425	603	1028	0.000	4	75	79	1.000
	回答者 の %	76.0%	96.8%	87.0%		100.0%	98.7%	98.8%	
	調整済み残差	−10.6	10.6			0.2	−0.2		
⑨子どもを褒める	度数	479	611	1090	0.000	4	76	80	−
	回答者 の %	85.7%	98.1%	92.2%		100.0%	100.0%	100.0%	
	調整済み残差	−7.9	7.9						
⑩子どもを寝かしつける	度数	265	579	844	0.000	4	65	69	1.000
	回答者 の %	47.4%	92.9%	71.4%		100.0%	85.5%	86.3%	
	調整済み残差	−17.3	17.3			0.8	−0.8		
⑪ごみを出す	度数	393	396	789	0.016	3	56	59	1.000
	回答者 の %	70.3%	63.6%	66.8%		75.0%	73.7%	73.8%	
	調整済み残差	2.5	−2.5			0.1	−0.1		
⑫病気の時に面倒を見る	度数	230	599	829	0.000	3	70	73	0.312
	回答者 の %	41.2%	96.1%	70.2%		75.0%	92.1%	91.3%	
	調整済み残差	−20.6	20.6			−1.2	1.2		
⑬保育所の行事に参加する	度数	401	600	1001	0.000	4	68	72	1.000
	回答者 の %	71.7%	96.3%	84.7%		100.0%	89.5%	90.0%	
	調整済み残差	−11.7	11.7			0.7	−0.7		
⑭保育園への送り迎えをする	度数	260	593	853	0.000	1	70	71	0.004
	回答者 の %	46.5%	95.2%	72.2%		25.0%	92.1%	88.8%	
	調整済み残差	−18.6	18.6			−4.1	4.1		
⑮その他	度数	14	39	53	0.002	0	4	4	1.000
	回答者 の %	2.5%	6.3%	4.5%		0.0%	5.3%	5.0%	
	調整済み残差	−3.1	3.1			−0.5	0.5		

②「ごちそうさま」の挨拶行動（表13）

「ごちそうさまをする」の頻度は、家庭状況が両親の場合、父親の66.7％、母親の82.5％が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が12.3％、母親が7.4％であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が7.5％、母親が3.9％、「月に２・３回」と回答したのは、父親が2.7％、母親が1.1％であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が10.7％、母親が5.1％と、母親で高率であった。

また家庭状況がひとり親の場合、父親の75.0％、母親の92.0％が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が25.0％、母親が2.7％であった。「月に２・３回」と回答したのは、父親が0％、母親が2.7％であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が0％、母親が2.7％とあまり差がみられなかった。

③食事づくり行動（買い物）（表14）

「食事の買い物をする」に対する頻度は、家庭状況が両親の場合、父親の3.6％、母親の18.0％が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が6.5％、母親が33.5％であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が40.0％、母親が44.6％、「月に２・３回」と回答したのは、父親が15.1％、母親が2.3％であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が34.9％、母親が1.6％であった。

家庭状況がひとり親の場合、父親の0％、母親の18.4

表12　家族形態別　「いただきます」の挨拶行動

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
ほとんど毎日	度数	375	519	894	0.000	3	70	73	0.145
	回答者 の %	67.0%	83.3%	75.6%		75.0%	92.1%	91.3%	
	調整済み残差	−6.5	6.5			−1.2	1.2		
週に3～5回	度数	73	52	125		1	2	3	
	回答者 の %	13.0%	8.3%	10.6%		25.0%	2.6%	3.8%	
	調整済み残差	2.6	−2.6			2.3	−2.3		
週に1～2回	度数	45	22	67		0	0	0	
	回答者 の %	8.0%	3.5%	5.7%		0.0%	0.0%	0.0%	
	調整済み残差	3.3	−3.3						
月に2・3回	度数	14	8	22		0	2	2	
	回答者 の %	2.5%	1.3%	1.9%		0.0%	2.6%	2.5%	
	調整済み残差	1.5	−1.5			−0.3	0.3		
ほとんどしない	度数	53	22	75		0	2	2	
	回答者 の %	9.5%	3.5%	6.3%		0.0%	2.6%	2.5%	
	調整済み残差	4.2	−4.2			−0.3	0.3		
合計	度数	560	623	1183		4	76	80	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表13　家族形態別　「ごちそうさま」の挨拶行動

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
ほとんど毎日	度数	373	514	887	0.000	3	69	72	0.15
	回答者 の %	66.7%	82.5%	75.0%		75.0%	92.0%	91.1%	
	調整済み残差	−6.3	6.3			−1.2	1.2		
週に3～5回	度数	69	46	115		1	2	3	
	回答者 の %	12.3%	7.4%	9.7%		25.0%	2.7%	3.8%	
	調整済み残差	2.9	−2.9			2.3	−2.3		
週に1～2回	度数	42	24	66		0	0	0	
	回答者 の %	7.5%	3.9%	5.6%		0.0%	0.0%	0.0%	
	調整済み残差	2.7	−2.7						
月に2・3回	度数	15	7	22		0	2	2	
	回答者 の %	2.7%	1.1%	1.9%		0.0%	2.7%	2.5%	
	調整済み残差	2.0	−2.0			−0.3	0.3		
ほとんどしない	度数	60	32	92		0	2	2	
	回答者 の %	10.7%	5.1%	7.8%		0.0%	2.7%	2.5%	
	調整済み残差	3.6	−3.6			−0.3	0.3		
合計	度数	559	623	1182		4	75	79	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表14　家族形態別　食事づくり行動（買い物）

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
ほとんど毎日	度数	20	112	132	0.000	0	14	14	0.150
	回答者 の %	3.6%	18.0%	11.2%		0.0%	18.4%	17.5%	
	調整済み残差	−7.9	7.9			−0.9	0.9		
週に3～5回	度数	36	208	244		1	27	28	
	回答者 の %	6.5%	33.5%	20.7%		25.0%	35.5%	35.0%	
	調整済み残差	−11.4	11.4			−0.4	0.4		
週に1～2回	度数	223	277	500		1	28	29	
	回答者 の %	40.0%	44.6%	42.4%		25.0%	36.8%	36.3%	
	調整済み残差	−1.6	1.6			−0.5	0.5		
月に2・3回	度数	84	14	98		1	3	4	
	回答者 の %	15.1%	2.3%	8.3%		25.0%	3.9%	5.0%	
	調整済み残差	7.9	−7.9			1.9	−1.9		
ほとんどしない	度数	195	10	205		1	4	5	
	回答者 の %	34.9%	1.6%	17.4%		25.0%	5.3%	6.3%	
	調整済み残差	15.1	−15.1			1.6	−1.6		
合計	度数	558	621	1179		4	76	80	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

%が「ほとんど毎日」と回答した。「週に3～5回」と回答したのは、父親が25.0%、母親が35.5%であった。「週に1～2回」と回答したのは、父親が25.0%、母親が36.8%であった。「月に2・3回」と回答したのは、父親が25.0%、母親が3.9%であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が25.0%、母親が5.3%であった。共に、母親が高率であった。ここでいう買い物も母親の買い物の同伴といったものであり、食事内容を考え自発的に買い物をする形ではない可能性もある。

④食事づくり行動（調理行動）（表15）

「食事のしたくをする」に対する頻度は、家庭状況が両親の場合、父親の6.5%、母親の79.8%が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が7.0%、母親が12.6%であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が18.5%、母親が5.5%、「月に２・３回」と回答したのは、父親が15.1%、母親が1.0%であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が52.9%、母親が1.1%であった。父親は特に食事づくり行動をしていない実態が明らかになった。

また家庭状況がひとり親の場合、父親の0%、母親の62.7%が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が25.0%、母親が17.3%であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が25.0%、母親が9.3%であった。「月に２・３回」と回答したのは、父親が0%、母親が2.7%であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が50.0%、母親が8.0%であったにも上り、共に、母親が高率であった。

⑤食事づくり行動（片づけ行動）（表16）

「あなたは次のことをどれぐらいしていますか」という問いの「食事の後片付けをする」に対し、家庭状況が両親の場合、父親の26.8%、母親の80.7%が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が18.1%、母親が12.2%であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が18.7%、母親が3.1%、「月に２・３回」と回答したのは、父親が9.9%、母親が1.8%であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が26.6%、母親が2.3%であった。ひとり親の場合、父親の50.0%、母親の84.0%が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が25.0%、母親が9.3%であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が0%、母親が2.7%であった。「月に２・３回」と回答したのは、父親が0%、母親が1.3%であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が25.0%、母親が2.7%であった。両親・一人親共に、母親が高率であった。

以上のことから、父親にとっては、食事づくり行動の中でも特に「食事のしたくをする」ことに困難があると考えられる。

⑥親の欠食（表17）

親の欠食状況をみると、家庭状況が両親の場合、父親で朝食を21.0%が「食べない」と回答しており、母親に比べて、有意に高い。ひとり親の場合には、母親も29.3%となっており、朝食の欠食が多いことがわかった。

表15　家族形態別　食事作り行動（調理行動）

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
ほとんど毎日	度数	36	495	531	0.000	0	47	47	0.036
	回答者 の %	6.5%	79.8%	45.2%		0.0%	62.7%	59.5%	
	調整済み残差	−25.2	25.2			−2.5	2.5		
週に3～5回	度数	39	78	117		1	13	14	
	回答者 の %	7.0%	12.6%	9.9%		25.0%	17.3%	17.7%	
	調整済み残差	−3.2	3.2			0.4	−0.4		
週に1～2回	度数	103	34	137		1	7	8	
	回答者 の %	18.5%	5.5%	11.6%		25.0%	9.3%	10.1%	
	調整済み残差	7.0	−7.0			1.0	−1.0		
月に2・3回	度数	84	6	90		0	2	2	
	回答者 の %	15.1%	1.0%	7.7%		0.0%	2.7%	2.5%	
	調整済み残差	9.1	−9.1			−0.3	0.3		
ほとんどしない	度数	294	7	301		2	6	8	
	回答者 の %	52.9%	1.1%	25.6%		50.0%	8.0%	10.1%	
	調整済み残差	20.3	−20.3			2.7	−2.7		
合計	度数	556	620	1176		4	75	79	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表16　家族形態別　食事作り行動（片づけ）

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
ほとんど毎日	度数	149	502	651	0.000	2	63	65	0.158
	回答者 の %	26.8%	80.7%	55.2%		50.0%	84.0%	82.3%	
	調整済み残差	−18.6	18.6			−1.7	1.7		
週に3～5回	度数	101	76	177		1	7	8	
	回答者 の %	18.1%	12.2%	15.0%		25.0%	9.3%	10.1%	
	調整済み残差	2.8	−2.8			1.0	−1.0		
週に1～2回	度数	104	19	123		0	2	2	
	回答者 の %	18.7%	3.1%	10.4%		0.0%	2.7%	2.5%	
	調整済み残差	8.8	−8.8			−0.3	0.3		
月に2・3回	度数	55	11	66		0	1	1	
	回答者 の %	9.9%	1.8%	5.6%		0.0%	1.3%	1.3%	
	調整済み残差	6.0	−6.0			−0.2	0.2		
ほとんどしない	度数	148	14	162		1	2	3	
	回答者 の %	26.6%	2.3%	13.7%		25.0%	2.7%	3.8%	
	調整済み残差	12.1	−12.1			2.3	−2.3		
合計	度数	557	622	1179		4	75	79	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表17　家族形態別　親の欠食

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
朝食	度数	114	38	152	0.000	1	22	23	1.000
	回答者 の %	21.0%	6.2%	13.1%		33.3%	29.3%	29.5%	
	調整済み残差	7.5	−7.5			0.1	−0.1		
夕食	度数	6	3	9	0.337	0	2	2	1.000
	回答者 の %	1.1%	.6%	0.8%		0.0%	3.0%	2.8%	
	調整済み残差	1.0	−1.0			−0.4	0.4		

⑦子どもとの共食（表18、表19）

「平日の朝、食事を子どもと一緒にする」に対し、家庭状況が両親の場合、父親の29.9%、母親の67.5%が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が10.9%、母親が10.1%であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が44.4%、母親が14.8%に上り、夕食以上に、父親が子どもと朝食を共にすることが少ない実態が明らかになった。ひとり親の場合、父親の50.0%、母親の50.0%が「ほとんど毎日」と回答した。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が25.0%、母親が25.0%であった。

「平日の夜、食事を子どもと一緒にする」に対し、両親の場合、父親の27.4%、母親の86.0%が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは父親が22.6%、母親が6.6%、「週に１～２回」と回答したのは父親が25.6%、母親が4.7%であった。「ほとんどしない」は父親が19.2%、母親が2.3%であった。ひとり親の場合、父親の50.0%、母親の50.0%が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～４回」と回答したのは、父親が25.0%、母親が19.7%、「週に１～２回」の回答は父親が0%、母親が5.3%であった。

両親の場合、朝夕共に母親と「ほぼ毎日食事をしている」割合が高かったが、ひとり親の場合には夕食のみ母親との共食率が高い。いずれも父親との共食の頻度が低かった。両親家族では父親が子どもと朝食を共食しない割合が高いことも明らかになった。

表18　家族形態別　朝食での子どもとの共食

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
ほとんど毎日	度数	167	420	587	0.000	2	38	40	0.967
	回答者	29.9%	67.5%	49.7%		50.0%	50.0%	50.0%	
	調整済み	−12.9	12.9			0.0	0.0		
週に3～5回	度数	61	63	124		1	15	16	
	回答者	10.9%	10.1%	10.5%		25.0%	19.7%	20.0%	
	調整済み	0.4	−0.4			0.3	−0.3		
週に1～2回	度数	66	41	107		0	4	4	
	回答者	11.8%	6.6%	9.1%		0.0%	5.3%	5.0%	
	調整済み	3.1	−3.1			−0.5	0.5		
月に2・3回	度数	16	6	22		0	0	0	
	回答者	2.9%	1.0%	1.9%		0.0%	0.0%	0.0%	
	調整済み	2.4	−2.4						
ほとんどしない	度数	248	92	340		1	19	20	
	回答者	44.4%	14.8%	28.8%		25.0%	25.0%	25.0%	
	調整済み	11.2	−11.2			0.0	0.0		
合計	度数	558	622	1180		4	76	80	
	回答者	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表19　家族形態別　夕食での子どもとの共食

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
ほとんど毎日	度数	153	534	687	0.000	1	56	57	0.060
	回答者	27.4%	86.0%	58.3%		25.0%	73.7%	71.3%	
	調整済み	−20.4	20.4			−2.1	2.1		
週に3～5回	度数	126	41	167		1	8	9	
	回答者	22.6%	6.6%	14.2%		25.0%	10.5%	11.3%	
	調整済み	7.9	−7.9			0.9	−0.9		
週に1～2回	度数	143	29	172		2	6	8	
	回答者	25.6%	4.7%	14.6%		50.0%	7.9%	10.0%	
	調整済み	10.2	−10.2			2.7	−2.7		
月に2・3回	度数	29	3	32		0	1	1	
	回答者	5.2%	0.5%	2.7%		0.0%	1.3%	1.3%	
	調整済み	5.0	−5.0			−0.2	0.2		
ほとんどしない	度数	107	14	121		0	5	5	
	回答者	19.2%	2.3%	10.3%		0.0%	6.6%	6.3%	
	調整済み	9.6	−9.6			−0.5	0.5		
合計	度数	558	621	1179		4.0	76.0	80	
	回答者	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

⑧食情報の発信（表20）

「メニューをリクエストする」に対し、家庭状況が両親の場合、父親の2.5％、母親の25.1％が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が8.4％、母親が9.0％であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が22.4％、母親が12.9％、「月に２・３回」と回答したのは、父親が19.3％、母親が8.2％であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が47.2％、母親が44.8％であった。ひとり親の場合、父親の0％、母親の20.0％が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が25.0％、母親が16.0％であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が0％、母親が17.3％であった。「月に２・３回」と回答したのは、父親が0％、母親が6.7％であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が75.0％、母親が40.0％であった。

「家族で食に関する話題をする」に対し、両親の場合、父親の8.0％、母親の26.5％が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が21.3％、母親が24.7％であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が31.3％、母親が26.2％、「月に２・３回」と回答したのは、父親が16.4％、母親が9.2％であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が23.0％、母親が13.4％であった。ひとり親の場合、父親の25.0％、母親の28.0％が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～４回」と回答したのは、父親が0％、母親が24.0％であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が50.0％、母親が20.0％であった。「月に２・３回」と回答したのは、父親が0％、母親が4.0％であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が25.0％、母親が24.0％であった。

「保育園の献立表を見る」に対し、家庭状況が両親の場合、父親の2.1％、母親の26.8％が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が4.3％、母親が19.7％であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が9.8％、母親が21.7％、「月に２・３回」と回答したのは、父親が19.5％、母親が19.1％であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が64.3％、母親が12.7％であった。ひとり親の場合、父親の0％、母親の34.2％が「ほとんど毎日」と回答した。「週に３～５回」と回答したのは、父親が0％、母親が15.0％であった。「週に１～２回」と回答したのは、父親が0％、母親が11.8％であった。「月に２・３回」と回答したのは、父親が33.3％、母親が22.0％であった。「ほとんどしない」と回答したのは、父親が50.0％、母親が22.4％であった。

いずれも両親の場合には、母親が父親より有意に頻度が高かった。特に、父親は保育園での献立表をみる者の割合が低かった。食情報の受発信に関しても、家庭内での父親の食に関する行動が課題であることが見えてきた。特に、子どもが毎日、口にしている昼食への関心が低い。子どもサイドからみれば、自分の実体験をもって家族と話せる話題であり、保育所給食の献立表を糸口に家庭内での食に関する会話の増加が見込める可能性があった。

３．親の食知識と育児・食態度

１）親の食知識

①子どもの食発達への理解（表21）

家庭状況が両親の場合は、「子どもの食の発達等について理解している」と回答した母親は父親より高く、「とてもあてはまる」「あてはまる」併せて母親が71.4％。父親が38.6％と、母親にゆだねている姿勢がうかがわれる。一方、ひとり親では「とてもあてはまる」「あてはまる」併せて母親64.5％、父親では「あてはまる」の回答が75.0％と、半数以上の父親、母親が理解していると回答している。「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答している両親家庭の父親が、22.8％、「どちらでもない」が38.7％あった。

②食事援助の方法への理解

「実際の食事の援助を理解しているか」という問いについても、両親家庭の母親が「とてもあてはまる」「あてはまる」と併せて58.0％、父親が28.3％と、父親の理解度が高くない結果であった。ひとり親家庭の父親は「あてはまる」が75.0％、母親は「とてもあてはまる」「あてはまる」併せて59.3％となっていて、この母親の回答に「どちらでもない」という回答が35.6％あることが気にかかる。ひとり親の父親の母数が少ないためでもあるが、食の援助について関心をもち、日々健闘している姿が浮かぶ。一方、両親家庭では、母親に多くをゆだねている父親の様子が垣間みえる。

③食事構成の知識

「子どものメニューを考えることができるか」という問いの回答をみると、両親家庭では母親の「とてもあてはまる」「あてはまる」が併せて73.1％、父親は同じように併せて21.8％と、父親の理解度が高くない結果であった。

ひとり親家庭の父親は「あてはまる」が25.0％、「どちらでもない」50.0％、「あまりあてはまらない」25.0％となっている。母親は「とてもあてはまる」「あてはまる」併せて67.1％、「どちらでもない」が25.0％、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が併せて7.8％、となっている。上記の子どもの食発達への理解、食事援助の方法への理解に比べて、知識がないと評価している父親が多いことも明らかになった。

２）親の育児・食態度

①親の食への関心（表22）

「あなたは食べることが好きですか」という問いに対し、家庭状況が両親の場合、父親の90％、母親の94.4％が「とてもそう好き」「好き」と回答した。「どちらでも

表20　家族形態別　食情報の発信

			両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
			父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
メニューをリクエストする	ほとんど毎日	度数	14	150	164	0.000	0	15	15	0.548
		回答者 の %	2.5%	25.1%	14.2%		0.0%	20.0%	19.0%	
		調整済み残差	−11.0	11.0			−1.0	1.0		
	週に3～5回	度数	47	54	101		1	12	13	
		回答者 の %	8.4%	9.0%	8.7%		25.0%	16.0%	16.5%	
		調整済み残差	−0.4	0.4			0.5	−0.5		
	週に1～2回	度数	126	77	203		0	13	13	
		回答者 の %	22.5%	12.9%	17.5%		0.0%	17.3%	16.5%	
		調整済み残差	4.3	−4.3			−0.9	0.9		
	月に2・3回	度数	108	49	157		0	5	5	
		回答者 の %	19.3%	8.2%	13.6%		0.0%	6.7%	6.3%	
		調整済み残差	5.5	−5.5			−0.5	0.5		
	ほとんどしない	度数	264	268	532		3	30	33	
		回答者 の %	47.2%	44.8%	46.0%		75.0%	40.0%	41.8%	
		調整済み残差	0.8	−0.8			1.4	−1.4		
	合計	度数	559	598	1157		4	75	79	
		回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	
家族で食に関する話題をする	ほとんど毎日	度数	45	164	209	0.000	1	21	22	0.605
		回答者 の %	8.0%	26.5%	17.7%		25.0%	28.0%	27.8%	
		調整済み残差	−8.3	8.3			−0.1	0.1		
	週に3～5回	度数	119	153	272		0	18	18	
		回答者 の %	21.3%	24.7%	23.1%		0.0%	24.0%	22.8%	
		調整済み残差	−1.4	1.4			−1.1	1.1		
	週に1～2回	度数	175	162	337		2	15	17	
		回答者 の %	31.3%	26.2%	28.6%		50.0%	20.0%	21.5%	
		調整済み残差	1.9	−1.9			1.4	−1.4		
	月に2・3回	度数	92	57	149		0	3	3	
		回答者 の %	16.4%	9.2%	12.6%		0.0%	4.0%	3.8%	
		調整済み残差	3.7	−3.7			−0.4	0.4		
	ほとんどしない	度数	129	83	212		1	18	19	
		回答者 の %	23.0%	13.4%	18.0%		25.0%	24.0%	24.1%	
		調整済み残差	4.3	−4.3			0.0	0.0		
	合計	度数	560	619	1179		4	75	79	
		回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	
保育園の献立表を見る	ほとんど毎日	度数	12	167	179	0.000	0	26	26	0.153
		回答者 の %	2.1%	26.8%	15.1%		0.0%	34.2%	32.5%	
		調整済み残差	−11.8	11.8			−1.4	1.4		
	週に3～5回	度数	24	123	147		0	9	9	
		回答者 の %	4.3%	19.7%	12.4%		0.0%	11.8%	11.3%	
		調整済み残差	−8.0	8.0			−0.7	0.7		
	週に1～2回	度数	55	135	190		0	13	13	
		回答者 の %	9.8%	21.7%	16.1%		0.0%	17.1%	16.3%	
		調整済み残差	−5.5	5.5			−0.9	0.9		
	月に2・3回	度数	109	119	228		2	17	19	
		回答者 の %	19.5%	19.1%	19.3%		50.0%	22.4%	23.8%	
		調整済み残差	0.2	−0.2			1.3	−1.3		
	ほとんどしない	度数	360	79	439		2	11	13	
		回答者 の %	64.3%	12.7%	37.1%		50.0%	14.5%	16.3%	
		調整済み残差	18.3	−18.3			1.9	−1.9		
	合計	度数	560	623	1183		4	76	80	
		回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表21　家族形態別　親の食知識

			両親 父親	両親 母親	両親 合計	χ^2検定 P値	ひとり親 父親	ひとり親 母親	ひとり親 合計	χ^2検定 P値
子どもの食発達への理解	とてもあてはまる	度数	21	121	142	0.000	0	10	10	0.135
		回答者	3.8%	19.5%	12.1%		.0%	13.2%	12.5%	
		調整済	−8.3	8.3			−.8	.8		
	あてはまる	度数	194	322	516		3	39	42	
		回答者	34.8%	51.9%	43.8%		75.0%	51.3%	52.5%	
		調整済	−5.9	5.9			.9	−.9		
	どちらでもない	度数	216	126	342		0	24	24	
		回答者	38.7%	20.3%	29.0%		.0%	31.6%	30.0%	
		調整済	6.9	−6.9			−1.3	1.3		
	あてはまらないあまり	度数	101	44	145		1	3	4	
		回答者	18.1%	7.1%	12.3%		25.0%	3.9%	5.0%	
		調整済	5.7	−5.7			1.9	−1.9		
	あてはまらない	度数	26	7	33		0	0	0	
		回答者	4.7%	1.1%	2.8%		0.0%	0.0%	0.0%	
		調整済	3.7	−3.7						
	合計	度数	558	620	1178		4	76	80	
		回答者	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	
子どもへの食事援助の方法の理解	とてもあてはまる	度数	19	101	120	0.000	0	10	10	0.539
		回答者	3.4%	16.3%	10.2%		.0%	13.2%	12.5%	
		調整済	−7.3	7.3			−.8	.8		
	あてはまる	度数	138	258	396		3	35	38	
		回答者	24.9%	41.7%	33.8%		75.0%	46.1%	47.5%	
		調整済	−6.1	6.1			1.1	−1.1		
	どちらでもない	度数	197	191	388		0	21	21	
		回答者	35.6%	30.9%	33.1%		.0%	27.6%	26.3%	
		調整済	1.7	−1.7			−1.2	1.2		
	あてはまらないあまり	度数	137	51	188		1	8	9	
		回答者	24.7%	8.2%	16.0%		25.0%	10.5%	11.3%	
		調整済	7.7	−7.7			.9	−.9		
	あてはまらない	度数	63	18	81		0	2	2	
		回答者	11.4%	2.9%	6.9%		.0%	2.6%	2.5%	
		調整済	5.7	−5.7			−.3	.3		
	合計	度数	554	619	1173		4	76	80	
		回答者	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	
食事構成の知識	とてもあてはまる	度数	20	149	169	0.000	0	8	8	0.236
		回答者	3.6%	24.2%	14.4%		.0%	10.5%	10.0%	
		調整済	−10.0	10.0			−.7	.7		
	あてはまる	度数	101	301	402		1	43	44	
		回答者	18.2%	48.9%	34.3%		25.0%	56.6%	55.0%	
		調整済	−11.0	11.0			−1.2	1.2		
	どちらでもない	度数	141	118	259		2	19	21	
		回答者	25.4%	19.2%	22.1%		50.0%	25.0%	26.3%	
		調整済	2.6	−2.6			1.1	−1.1		
	あてはまらないあまり	度数	147	40	187		1	3	4	
		回答者	26.5%	6.5%	16.0%		25.0%	3.9%	5.0%	
		調整済	9.3	−9.3			1.9	−1.9		
	あてはまらない	度数	146	8	154		0	3	3	
		回答者	26.3%	1.3%	13.2%		.0%	3.9%	3.8%	
		調整済	12.6	−12.6			−.4	.4		
	合計	度数	555	616	1171		4	76	80	
		回答者	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

ない」と回答したのは、父親が8.4%、母親が5.0%であった。「あまり好きではない」と回答したのは、父親が1.6%、母親が0.6%であった。母親が父親に比べて、食べることが好きと回答していた。ひとり親の場合、父親の100%、母親の92.1%が「とてもそう好き」「好き」と回答した。「どちらでもない」と回答したのは、父親が0%、母親が6.6%であった。「あまり好きではない」と回答したのは、父親が0%、母親が1.3%であった。

②子どもの食事づくり行動への自信（表23）

「子どもの食事作りに自信がある」については、両親家庭の父親が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」併せて最も高く59.7%、母親でも29.3%、ひとり親家庭の父親は50.0%、母親25.4%であった。「とてもあ

てはまる」「あてはまる」と回答している割合が、両親家庭、ひとり親家庭ともに「あまりあてはまらない」「あてはまらない」併せた割合よりも少なかった。このように、父親の６割、母親も３割は自信がないと評価していた。

③食事づくり行動への負担感（表24、表25）

「食事づくりがつらいですか」という問いに対し、「食事づくりをしない」と回答したのは、両親家族では父親が51.4％、母親が1.7％、ひとり親家族では父親が50.0％、母親が6.0％であった。これらを除いて分析すると、家庭状況が両親の場合、父親の38.0％、母親の74.1％が「とてもつらい」「時々つらい」と回答した。「苦にならない」と回答したのは、父親が62.0％、母親が25.9％であった。また家庭状況がひとり親の場合、父親の50.0％、母親の55.7％が「とてもつらい」「時々つらい」と回答した。「苦にならない」と回答したのは、父親が50.0％、母親が44.3％であった。

表22　家族形態別　食への関心

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
とても好き	度数	253	334	587	0.004	1	34	35	0.741
	回答者 の %	45.2%	53.6%	49.6%		25.0%	44.7%	43.8%	
	調整済み残差	−2.9	2.9			−0.8	0.8		
好き	度数	251	254	505		3	36	39	
	回答者 の %	44.8%	40.8%	42.7%		75.0%	47.4%	48.8%	
	調整済み残差	1.4	−1.4			1.1	−1.1		
どちらでもない	度数	47	31	78		0	5	5	
	回答者 の %	8.4%	5.0%	6.6%		0.0%	6.6%	6.3%	
	調整済み残差	2.4	−2.4			−0.5	0.5		
あまり好きではない	度数	9	4	13		0	1	1	
	回答者 の %	1.6%	0.6%	1.1%		0.0%	1.3%	1.3%	
	調整済み残差	1.6	−1.6			−0.2	0.2		
合計	度数	560	623	1183		4	76	80	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表23　家族形態別　食事作りへの自信

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
とてもあてはまる	度数	28	44	72	0.000	0	5	5	0.663
	回答者	5.0%	7.1%	6.1%		.0%	6.7%	6.3%	
	調整済	−1.5	1.5			−0.5	0.5		
あてはまる	度数	56	126	182		1	9	10	
	回答者	10.1%	20.3%	15.5%		25.0%	12.0%	12.7%	
	調整済	−4.8	4.8			0.8	−0.8		
どちらでもない	度数	140	269	409		1	42	43	
	回答者	25.2%	43.3%	34.7%		25.0%	56.0%	54.4%	
	調整済	−6.5	6.5			−1.2	1.2		
あてはまらないあまり	度数	115	130	245		1	11	12	
	回答者	20.7%	20.9%	20.8%		25.0%	14.7%	15.2%	
	調整済	−0.1	0.1			0.6	−0.6		
あてはまらない	度数	217	52	269		1	8	9	
	回答者	39.0%	8.4%	22.9%		25.0%	10.7%	11.4%	
	調整済	12.5	−12.5			0.9	−0.9		
合計	度数	556	621	1177		4	75	79	
	回答者	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

また、「食事づくりがつらいですか」という問いで「とてもつらい」「時々つらい」と回答した者にその理由を質問したところ、「調理が得意でないから」と回答したのは、家庭状況が両親の場合、父親の20.1％、母親の33.8％であった。また家庭状況がひとり親の場合、父親の0％、母親の41.5％であった。「調理の時間がない」と回答したのは、家庭状況が両親の場合、父親の32.9％、母親の57.6％であった。また家庭状況がひとり親の場合、父親の100％、母親の53.7％であった。「献立を考えるのが大変」と回答したのは、家庭状況が両親の場合、父親の26.2％、母親の59.3％であった。また家庭状況がひとり親の場合、父親の100％、母親の56.1％であった。「食材を購入する時間がない」と回答したのは、家庭状況が両親の場合、父親の3.0％、母親の13.6％であった。また家庭状況がひとり親の場合、父親の0％、母親の9.8％であった。「その他」には家庭状況が両親の場合、父親の2.4％、母親の12.1％で、家庭状況がひとり親の場合、父親の0％、母親の14.6％であった。「疲れている」「体調不良」のように親側の理由もみられたが、「子どもが食べてくれない」「寝てしまう」等の子ども側の理由も背景にみられた。

表24　家族形態別　食事づくり行動への負担感

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
とてもつらい	度数	7	29	36	0.000	1	6	7	0.111
	回答者 の ％	2.6%	4.8%	4.1%		50.0%	8.6%	9.7%	
	調整済み残差	−1.5	1.5			1.9	−1.9		
時々つらい	度数	96	423	519		0	33	33	
	回答者 の ％	35.4%	69.3%	58.9%		0.0%	47.1%	45.8%	
	調整済み残差	−9.4	9.4			−1.3	1.3		
苦にならない	度数	168	158	326		1	31	32	
	回答者 の ％	62.0%	25.9%	37.0%		50.0%	44.3%	44.4%	
	調整済み残差	10.2	−10.2			0.2	−0.2		
合計	度数	271	610	881		2	70	72	
	回答者 の ％	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表25　家族形態別　食事づくりが負担な理由

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
①調理が得意でない	度数	33	162	195	0.001	0	17	17	1.000
	回答者 の ％	20.1%	33.8%	30.3%		0.0%	41.5%	40.5%	
	調整済み残差	−3.3	3.3			−0.8	0.8		
②時間がない	度数	54	276	330	0.000	1	22	23	1.000
	回答者 の ％	32.9%	57.6%	51.3%		100.0%	53.7%	54.8%	
	調整済み残差	−5.5	5.5			0.9	−0.9		
③献立を考えるのが大変	度数	43	284	327	0.000	1	23	24	1.000
	回答者 の ％	26.2%	59.3%	50.9%		100.0%	56.1%	57.1%	
	調整済み残差	−7.3	7.3			0.9	−0.9		
④食材を購入する時間がない	度数	5	65	70	0.000	0	4	4	1.000
	回答者 の ％	3.0%	13.6%	10.9%		0.0%	9.8%	9.5%	
	調整済み残差	−3.7	3.7			−0.3	0.3		
⑤その他	度数	4	58	62	0.000	0	6	6	1.000
	回答者 の ％	2.4%	12.1%	9.6%		0.0%	14.6%	14.3%	
	調整済み残差	−3.6	3.6			−0.4	0.4		
合計	度数	164	479	643		1	41	42	
	回答者 の ％	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

④子どもの食具使用への関心（表26）

「お子さんのスプーン・箸の使い方が気になりますか」という問いに対し、両親の場合、父親の62.8%、母親の61.8%が「とても気になる」「気になる」と回答した。「どちらでもない」と回答したのは、父親が15.9%、母親が12.9%であった。「あまり気にならない」と回答したのは、父親が13.8%、母親が18.7%、「気にならない」と回答したのは、父親が7.5%、母親が6.6%であった。一方、ひとり親の場合、父親の50.0%、母親の47.4%が「とても気になる」「気になる」と回答した。「どちらでもない」と回答したのは、父親が0%、母親が19.7%であった。「あまり気にならない」と回答したのは、父親が25.0%、母親が25.0%、「気にならない」と回答したのは、父親が25.0%、母親が7.9%であった。食具使用への関心については両親、ひとり親共に、母親と父親で違いがみられなかった。

⑤妊娠時の育児参加意欲（親準備性）（表27）

「妊娠時に父親学級・母親学級などに参加した」など、育児への参加意欲については、妊娠した本人となる両親家庭の母親は「とてもあてはまる」「あてはまる」が併せて74.1%、ひとり親家庭の母親も同じように併せて57.9%であった。ひとり親家庭の母親の回答では、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」併せて約３分の１の38.1%が回答しており、少し気にかかる。

父親については、両親家庭では「とてもあてはまる」「あてはまる」35.3%、ひとり親の父親は「あてはまる」が33.3%、「どちらでもない」が0%、「あてはまらない」が66.7%となっている。両親の場合、妊娠時の段階から父親と母親の違いが大きかった。

表26　家族形態別　子どもの食具使用への関心

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
とても気になる	度数	88	85	173	0.112	1	10	11	0.637
	回答者 の %	15.8%	13.7%	14.7%		25.0%	13.2%	13.8%	
	調整済み残差	1.0	−1.0			0.7	−0.7		
気になる	度数	262	298	560		1	26	27	
	回答者 の %	47.0%	48.1%	47.5%		25.0%	34.2%	33.8%	
	調整済み残差	−0.4	0.4			−0.4	0.4		
どちらでもない	度数	89	80	169		0	15	15	
	回答者 の %	15.9%	12.9%	14.3%		0.0%	19.7%	18.8%	
	調整済み残差	1.5	−1.5			−1.0	1.0		
あまり気にならない	度数	77	116	193		1	19	20	
	回答者 の %	13.8%	18.7%	16.4%		25.0%	25.0%	25.0%	
	調整済み残差	−2.3	2.3			0.0	0.0		
気にならない	度数	42	41	83		1	6	7	
	回答者 の %	7.5%	6.6%	7.0%		25.0%	7.9%	8.8%	
	調整済み残差	0.6	−0.6			1.2	−1.2		
合計	度数	558	620	1178		4	76	80	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表27　家族形態別　妊娠時の育児参加意欲（親準備性）

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
とてもあてはまる	度数	72	292	364	0.000	0	26	26	0.718
	回答者 の %	13.2%	46.9%	31.1%		0.0%	34.2%	32.9%	
	調整済み残差	−12.4	12.4			−1.2	1.2		
あてはまる	度数	121	169	290		1	18	19	
	回答者 の %	22.1%	27.2%	24.8%		33.3%	23.7%	24.1%	
	調整済み残差	−2.0	2.0			0.4	−.4		
どちらでもない	度数	49	25	74		0	3	3	
	回答者 の %	9.0%	4.0%	6.3%		0.0%	3.9%	3.8%	
	調整済み残差	3.5	−3.5			−0.4	.4		
あてはまらないあまり	度数	48	31	79		0	2	2	
	回答者 の %	8.8%	5.0%	6.8%		0.0%	2.6%	2.5%	
	調整済み残差	2.6	−2.6			−0.3	.3		
あてはまらない	度数	257	105	362		2	27	29	
	回答者 の %	47.0%	16.9%	31.0%		66.7%	35.5%	36.7%	
	調整済み残差	11.1	−11.1			1.1	−1.1		
合計	度数	547	622	1169		3	76	79	
	回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

⑥自分の父親の育児参加度と食事づくりへの参加度（表28）

「自分の父親は積極的に子育てにか関わっていた」かの問いについての回答は、両親家庭の父親で「とてもあてはまる」「あてはまる」が併せて18.1%。母親では同じく33.2%となっている。反対に「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が併せて父親が53.4%、母親が44.6%となっている。ひとり親家庭の父親は「あまりあてはまらない」が25.0%、母親は「あまりあてはまらない」「あてはまらない」併せて48.6%となっている。

「自分の父親は積極的に食事作りに関わっていた」についての回答は、前問と同じように、「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の回答が半数を超えている。子育て参加度よりも高くなっており、両親家庭で父親は69.6%、母親は68.7%、ひとり親家庭の父親で75.0%、

表28　家族形態別　自分の父親の育児参加度と食事づくりへの参加度

			両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
			父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
自分の父親の育児参加度	とてもあてはまる	度数	26	78	104	0.000	0	8	8	0.116
		回答者 の %	4.7%	12.6%	8.9%		0.0%	11.1%	10.5%	
		調整済み残差	-4.8	4.8			-0.7	.7		
	あてはまる	度数	74	127	201		0	15	15	
		回答者 の %	13.4%	20.6%	17.2%		0.0%	20.8%	19.7%	
		調整済み残差	-3.3	3.3			-1.0	1.0		
	どちらでもない	度数	158	137	295		3	14	17	
		回答者 の %	28.5%	22.2%	25.2%		75.0%	19.4%	22.4%	
		調整済み残差	2.5	-2.5			2.6	-2.6		
	あてはまらないあまり	度数	138	153	291		1	19	20	
		回答者 の %	24.9%	24.8%	24.9%		25.0%	26.4%	26.3%	
		調整済み残差	.0	.0			-0.1	.1		
	あてはまらない	度数	158	122	280		0	16	16	
		回答者 の %	28.5%	19.8%	23.9%		0.0%	22.2%	21.1%	
		調整済み残差	3.5	-3.5			-1.1	1.1		
	合計	度数	554	617	1171		4	72	76	
		回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	
自分の父親の食事づくり参加度	とてもあてはまる	度数	23	40	63	0.223	0	3	3	0.479
		回答者 の %	4.2%	6.5%	5.4%		0.0%	4.2%	4.0%	
		調整済み残差	-1.8	1.8			-0.4	.4		
	あてはまる	度数	50	65	115		0	13	13	
		回答者 の %	9.0%	10.6%	9.9%		0.0%	18.3%	17.3%	
		調整済み残差	-.9	.9			-0.9	.9		
	どちらでもない	度数	95	87	182		1	7	8	
		回答者 の %	17.2%	14.2%	15.6%		25.0%	9.9%	10.7%	
		調整済み残差	1.4	-1.4			1.0	-1.0		
	あてはまらないあまり	度数	120	124	244		2	15	17	
		回答者 の %	21.7%	20.3%	20.9%		50.0%	21.1%	22.7%	
		調整済み残差	.6	-.6			1.3	-1.3		
	あてはまらない	度数	265	296	561		1	33	34	
		回答者 の %	47.9%	48.4%	48.2%		25.0%	46.5%	45.3%	
		調整済み残差	-.2	.2			-.8	.8		
	合計	度数	553	612	1165		4	71	75	
		回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

母親で67.6%となっている。

今現在、育児をしている世代の親の世代では、家庭生活の中での子育ての役割は、現在よりももっと母親にゆだねられていたと考えられる。今現在の子育て世代は、父親の子育て態度や父親が食事を作るなどの姿に接する機会が少なく、子育て中の両親ともに、父親が子育てや食事作りに係わるモデルが想像できないとも考えられる。

⑦子どもとの接し方への自信（表29）

「子どもとの接し方、関わりに自信がある」については、父親、母親の差があまりなかった。「とてもあてはまる」「あてはまる」を合わせて両親家庭の場合、父親は39.6%、母親は35.1%だった。「あまりあてはまらない」と回答した母親が父親の10.9%よりも高く、15.2%が回答している。ひとり親家庭では、「とてもあてはまる」「あてはまる」を合わせて母親の31.6%が回答しているのに比べ、父親は50%となっている。「どちらでもない」と回答しているのが両親家庭の父親は47.0%、母親は45.5%、ひとり親家庭の父親25.0%、母親は51.3%あった。「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を合わせて両親家庭、ひとり親家庭ともに15～25%程度回答があるので、「どちらでもない」と回答している親への子育て支援の配慮が必要ではないだろうか。

⑧親同士のつながりの必要性と現状（表30）

「保育園での親同士のつながりを持ちたいと思う」については、両親家庭の母親59.7%、ひとり親家庭の父親50.0%、母親47.3%と約半数が「とてもあてはまる」「あてはまる」と回答してしるが、両親家庭の父親は34.9%となっている。

「現在保育園での親同士のつながりを持っている」については、「とてもあてはまる」「あてはまる」を合わせて、両親家庭の母親が49.3%と約半数、ひとり親家庭の父親25.0%、ひとり親家庭の母親も39.4%回答している。両親家庭の父親は「あまりあてはまらない」「あてはまらない」が59.7%となっている。母親でも28.4%がつながりを持っていない様子である。ひとり親家庭の父親で50.0%、母親では42.1%がつながりを持っていない様子である。両親家庭でも親同士の繋がりを現在もっていない、かつ、持ちたいとも思っていない親が父親の方が多いことがわかり、その具体的イメージやメリットを感じていないことが想定でき、子ども同士も関わりを持ちにくい状態をもたらしている可能性も多いことから、保育園における保護者支援の課題となるのではないかと考える。

表29　家族形態別　子どもとの接し方への自信

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
とてもあてはまる	度数	58	61	119	0.081	1	4	5	0.458
	回答者	10.4%	9.8%	10.1%		25.0%	5.3%	6.3%	
	調整済	0.3	−0.3			1.6	−1.6		
あてはまる	度数	163	157	320		1	20	21	
	回答者	29.2%	25.3%	27.2%		25.0%	26.3%	26.3%	
	調整済	1.5	−1.5			−0.1	0.1		
どちらでもない	度数	262	282	544		1	39	40	
	回答者	47.0%	45.5%	46.2%		25.0%	51.3%	50.0%	
	調整済	0.5	−0.5			−1.0	1.0		
あてはまらないあまり	度数	61	94	155		1	9	10	
	回答者	10.9%	15.2%	13.2%		25.0%	11.8%	12.5%	
	調整済	−2.1	2.1			0.8	−0.8		
あてはまらない	度数	14	26	40		0	4	4	
	回答者	2.5%	4.2%	3.4%		0.0%	5.3%	5.0%	
	調整済	−1.6	1.6			−0.5	0.5		
合計	度数	558	620	1178		4	76	80	
	回答者	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

表30　家族形態別　親同士のつながりへの意欲と現状

			両親 父親	両親 母親	両親 合計	χ^2検定 P値	ひとり親 父親	ひとり親 母親	ひとり親 合計	χ^2検定 P値
親同士の繋がりの現状への意欲	とてもあてはまる	度数	39	90	129	0.000	0	9	9	0.451
		回答者 の %	7.0%	14.5%	10.9%		0.0%	11.8%	11.3%	
		調整済み残差	−4.1	4.1			−0.7	0.7		
	あてはまる	度数	156	281	437		2	27	29	
		回答者 の %	27.9%	45.2%	37.0%		50.0%	35.5%	36.3%	
		調整済み残差	−6.2	6.2			0.6	−0.6		
	どちらでもない	度数	231	183	414		1	26	27	
		回答者 の %	41.3%	29.5%	35.1%		25.0%	34.2%	33.8%	
		調整済み残差	4.3	−4.3			−0.4	0.4		
	あてはまらないあまり	度数	67	46	113		1	4	5	
		回答者 の %	12.0%	7.4%	9.6%		25.0%	5.3%	6.3%	
		調整済み残差	2.7	−2.7			1.6	−1.6		
	あてはまらない	度数	66	21	87		0	10	10	
		回答者 の %	11.8%	3.4%	7.4%		0.0%	13.2%	12.5%	
		調整済み残差	5.5	−5.5			−0.8	0.8		
	合計	度数	559	621	1180		4	76	80	
		回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	
親同士の繋がりの現状	とてもあてはまる	度数	20	61	81	0.000	0	3	3	0.973
		回答者 の %	3.6%	9.8%	6.9%		0.0%	3.9%	3.8%	
		調整済み残差	−4.2	4.2			−0.4	0.4		
	あてはまる	度数	76	246	322		1	27	28	
		回答者 の %	13.6%	39.5%	27.3%		25.0%	35.5%	35.0%	
		調整済み残差	−10.0	10.0			−0.4	0.4		
	どちらでもない	度数	130	138	268		1	14	15	
		回答者 の %	23.3%	22.2%	22.7%		25.0%	18.4%	18.8%	
		調整済み残差	0.4	−0.4			0.3	−.3		
	あてはまらないあまり	度数	104	106	210		1	13	14	
		回答者 の %	18.6%	17.0%	17.8%		25.0%	17.1%	17.5%	
		調整済み残差	0.7	−0.7			0.4	−0.4		
	あてはまらない	度数	229	71	300		1	19	20	
		回答者 の %	41.0%	11.4%	25.4%		25.0%	25.0%	25.0%	
		調整済み残差	11.6	−11.6			0.0	0.0		
	合計	度数	559	622	1181		4	76	80	
		回答者 の %	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%	100.0%	100.0%	

４．保育園の食育プログラムに対するニーズ

１）期待する相談・アドバイスの内容（表31）

「母乳不足」「ミルクを飲む量が少ない」「体重が少ない」「体重が多い」「離乳食の進め方」についての相談内容を選択している親は少なく、自分の子どもが、乳児期、離乳期を過ぎている親が多いためで、情報として必要としてはいないと考えられる。

「少食」「食べ過ぎ」「早食い」がともに10%未満であるが、発達に伴う子どもの食行動上おこる問題点として、「時間がかかる」「食欲にむらがある」「好き嫌いが多い」「散らかし食い・遊び食べ」を選択する親が25%前後に増えてきている。

「食欲がない」を選択した親が2%前後と少なかったが、保育所生活で身に着けた規則正しい生活習慣の成果で、空腹で食事に臨むという食生活が行われていると期待したい。

「よくかまない」は父親と母親で違いがみられ、両親家庭、ひとり親家庭ともに母親の選択割合が高かった。「口から出す」の選択割合は10%前後だった。摂食口腔機能に関する項目については、保育所からある程度の情報提供が必要ではないかと考える。

「落ち着いて座っていられない」は、両親家庭の父親、母親合わせて31.4%、ひとり親家庭の父親、母親では30.0%、「スプーンや箸の使い方」については、他の項目に比べて選択数が多く、両親家庭の父親、母親合わせて34.9%であった。ひとり親家庭の父親25.0%となって、母親は22.4%となっていた。

食事作りをする上での相談・アドバイスとして「栄養バランス」「安全な食材の選び方」を揚げていたが、「栄養バランス」は母親の方が有意に高く、両親家庭の母親44.3%と高く、父親は21.8%となっていた。ひとり親家庭の父親は25.0%、母親は39.5%となっていた。「安全な食材の選び方」についても父親よりも母親が選択している割合が多かった。両親家庭の父親は16.4%に対して母親は27.0%となっていた。「外食利用のしかた」については、両親家庭で父親、母親合わせて19.9%、ひとり親家庭では、少し下がって16.3%となっていた。「食物アレルギー」についての選択は意外に少なく、両親家庭

の父親15.1%、母親9.9%、ひとり親家庭の父親25.0%、母親10.5%となっていた。

このように、最もニーズが高かったのは「スプーンや箸の使い方」であり、父親と母親、双方共に高かった。次いで、「栄養バランス」で、特に母親でニーズが高い。発達に伴って食行動上におこる「食欲にムラがある」「落ち着いて座っていられない」等も高かった。

2）プログラムの内容（表32、表33）

保育園の食育活動として実施して「欲しい」か「いらない」それぞれ回答してもらった。父親、母親ともに半数以上が「欲しい」と回答した項目は高率であった順に、以下のとおりである。

最もニーズの高かったのは、「食べ物を育てて収穫する」「食に関する情報をもらう」「親子で調理体験をする」であった。特に、「食べ物を育てて収穫する」は、両親家庭の父親で81.0%、母親で77.7%に上り、双方に違いがなく、高率であった。「子どもの食に関する情報をもらう」ことを「欲しい」と回答した者は、両親家族では父親が76.4%、母親が84.7%で、母親にとって

表31　家族形態別　期待する相談・アドバイスの内容

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
母乳が不足している	度数	4	8	12	0.394	0	0	0	
	回答者 の %	0.7%	1.3%	1.0%		0.0%	0.0%	0.0%	
	調整済み残差	−1.0	1.0						
ミルクの飲む量が少ない	度数	1	2	3	1.000	0	0	0	
	回答者 の %	0.2%	0.3%	0.3%		0.0%	0.0%	0.0%	
	調整済み残差	−0.5	0.5						
体重が増えない	度数	32	51	83	0.111	0	6	6	1.000
	回答者 の %	5.8%	8.2%	7.1%		0.0%	7.9%	7.5%	
	調整済み残差	−1.7	1.7			−0.6	0.6		
体重が多い	度数	30	28	58	0.503	0	4	4	1.000
	回答者 の %	5.4%	4.5%	4.9%		0.0%	5.3%	5.0%	
	調整済み残差	0.7	−0.7			−0.5	0.5		
離乳食の進め方	度数	12	23	35	0.125	0	2	2	1.000
	回答者 の %	2.2%	3.7%	3.0%		0.0%	2.6%	2.5%	
	調整済み残差	−1.6	1.6			−0.3	0.3		
小食	度数	61	61	122	0.566	2	8	10	0.074
	回答者 の %	11.0%	9.9%	10.4%		50.0%	10.5%	12.5%	
	調整済み残差	0.6	−0.6			2.3	−2.3		
食べ過ぎる	度数	59	63	122	0.848	0	7	7	1.000
	回答者 の %	10.6%	10.2%	10.4%		0.0%	9.2%	8.8%	
	調整済み残差	0.3	−0.3			−0.6	0.6		
早食い	度数	37	47	84	0.572	0	3	3	1.000
	回答者 の %	6.7%	7.6%	7.2%		0.0%	3.9%	3.8%	
	調整済み残差	−0.6	0.6			−0.4	0.4		
食べるのに時間がかかる	度数	133	169	302	0.229	2	22	24	0.579
	回答者 の %	24.1%	27.3%	25.8%		50.0%	28.9%	30.0%	
	調整済み残差	−1.3	1.3			0.9	−0.9		
食欲にムラがある	度数	153	233	386	0.000	3	28	31	0.293
	回答者 の %	27.6%	37.7%	32.9%		75.0%	36.8%	38.8%	
	調整済み残差	−3.7	3.7			1.5	−1.5		
食欲がない	度数	16	10	26	0.166	0	2	2	1.000
	回答者 の %	2.9%	1.6%	2.2%		0.0%	2.6%	2.5%	
	調整済み残差	1.5	−1.5			−0.3	0.3		
散らかし食い・遊び食い	度数	139	131	270	0.126	2	18	20	0.259
	回答者 の %	25.0%	21.2%	23.0%		50.0%	23.7%	25.0%	
	調整済み残差	1.6	−1.6			1.2	−1.2		
よく噛まない	度数	78	127	205	0.004	0	10	10	0.580
	回答者 の %	14.1%	20.5%	17.5%		0.0%	13.2%	12.5%	
	調整済み残差	−2.9	2.9			−0.8	0.8		
口から出す	度数	49	60	109	0.616	1	6	7	0.312
	回答者 の %	8.8%	9.7%	9.3%		25.0%	7.9%	8.8%	
	調整済み残差	−0.5	0.5			1.2	−1.2		
落ち着いて座っていられな	度数	182	186	368	0.313	4	20	24	0.007
	回答者 の %	32.9%	30.0%	31.4%		100.0%	26.3%	30.0%	
	調整済み残差	1.1	−1.1			3.1	−3.1		
スプーン・箸の使い方	度数	180	229	409	0.111	1	17	18	1.000
	回答者 の %	32.4%	37.0%	34.8%		25.0%	22.4%	22.5%	
	調整済み残差	−1.6	1.6			0.1	−0.1		
栄養バランス	度数	121	274	395	0.000	1	30	31	1.000
	回答者 の %	21.8%	44.3%	33.6%		25.0%	39.5%	38.8%	
	調整済み残差	−8.1	8.1			−0.6	0.6		
安全な食材の選び方	度数	91	167	258	0.000	0	15	15	1.000
	回答者 の %	16.4%	27.0%	22.0%		0.0%	19.7%	18.8%	
	調整済み残差	−4.4	4.4			−1.0	1.0		
外食の利用のしかた	度数	107	127	234	0.609	2	11	13	0.122
	回答者 の %	19.3%	20.5%	19.9%		50.0%	14.5%	16.3%	
	調整済み残差	−0.5	0.5			1.9	−1.9		
食物アレルギー	度数	84	61	145	0.008	1	8	9	0.386
	回答者 の %	15.1%	9.9%	12.4%		25.0%	10.5%	11.3%	
	調整済み残差	2.7	−2.7			0.9	−0.9		

は最も高率な内容であった。ひとり親家族でも、父親が75.0%、母親が72.4%と、高率な内容となっていた。「給食の試食会を開催する」ことを「欲しい」と回答した者は、両親家族では父親が51.8%、母親が75.7%と、母親に比べて父親からのニーズは半数に留まった。ひとり親家族では、父親が75.0%、母親が61.8%であった。「子どもの食について相談、援助を受ける」ことを「欲しい」と回答した者は、両親家族では父親が50.3%、母親が59.1%、と、母親に比べて、父親では若干低率であった。ひとり親家族では父親が50.0%、母親が47.4%、「欲しい」と「いらない」が半々程度の回答であった。

一方、「欲しい」と回答した割合が少なかったのは、以下の項目である。

「子どもの食育活動の企画、運営に参加する」ことを「欲しい」と回答した者は両親家族で父親が29.8%、母親が32.2%、ひとり親家族では父親が25.0%、母親が28.0%であった。「親同士で子どもの食について話し合う」ことを「欲しい」と回答した者は両親家族で父親が33.9%、母親が40.6%、ひとり親家族で父親が50.0%、母親が31.6%であった。

「母乳、離乳食、幼児食などに関する講座を受ける」ことを「欲しい」と回答した者は、両親家族では父親が30.8%、母親が45.5%、ひとり親家族では父親が50.0%、母親が27.0%であった。「地域の人々と食を通じて交流する」ことを「欲しい」と回答した者は両親家族では父親が41.0%、母親が37.9%、ひとり親家族では父親が50.0%、母親が28.9%であった。これらは、人との交流や継続的に時間を要する項目であった。保護者と連携するにあたり、単独の企画ではなく、他の内容と組み合わせることにより、相乗効果が得られる可能性も考えられた。

また、ほとんどの項目で母親が父親に比べて、希望が多かったが、父親の方が母親より希望が多かった「食べ物を育てて収穫する」「地域の人々と食を通じて交流する」ことを盛り込んだプログラムにすることが期待されていた。

保育所に子どもを預けている親は、仕事と家庭生活の両立が日常の課題である。家族形態別にみると、両親家族に比べて、ひとり親家族の方がややニーズが低い傾向で、それだけ時間的にも精神的にもゆとりがない可能性も推測された。

年齢別に検討すると、ほとんどの内容が３歳児のいる親よりも、１、２歳児のいる親からのニーズが高いことがわかる。「食べ物を育てて収穫する」「親子で調理体験をする」などの体験活動や「給食の試食会を開催する」も同様であり、食に関して最も関心が高いのは子どもが３歳未満の頃であり、その時点での支援が有効である可

表32　家族形態別　希望するプログラムの内容

		両親			χ^2検定	ひとり親			χ^2検定
		父親	母親	合計	P値	父親	母親	合計	P値
絵本や紙芝居などで、親子で食に関する話を聞く	度数	302	374	676	0.033	2	48	50	0.628
	回答者 の %	54.4%	60.6%	57.7%		50.0%	63.2%	62.5%	
	調整済み残差	−2.1	2.1			−0.5	0.5		
親子で調理体験する	度数	359	447	806	0.008	2	51	53	0.600
	回答者 の %	64.7%	71.9%	68.5%		50.0%	67.1%	66.3%	
	調整済み残差	−2.6	2.6			−0.7	0.7		
親子で食べ物を育てたり、収穫する	度数	449	480	929	0.170	2	55	57	0.574
	回答者 の %	81.0%	77.7%	79.3%		50.0%	72.4%	71.3%	
	調整済み残差	1.4	−1.4			−1.0	1.0		
親同士で子どもの食について話し合う	度数	187	251	438	0.018	2	24	26	0.592
	回答者 の %	33.9%	40.6%	37.4%		50.0%	31.6%	32.5%	
	調整済み残差	−2.4	2.4			0.8	−0.8		
子どもの食について、相談・援助を受ける	度数	278	366	644	0.003	2	36	38	1.000
	回答者 の %	50.3%	59.1%	54.9%		50.0%	47.4%	47.5%	
	調整済み残差	−3.0	3.0			0.1	−0.1		
母乳・離乳食・幼児食などに関する講座を受ける	度数	169	280	449	0.000	2	20	22	0.315
	回答者 の %	30.8%	45.5%	38.6%		50.0%	27.0%	28.2%	
	調整済み残差	−5.1	5.1			1.0	−1.0		
子どもの食に関する情報をもらう	度数	423	524	947	0.000	3	55	58	1.000
	回答者 の %	76.4%	84.7%	80.7%		75.0%	72.4%	72.5%	
	調整済み残差	−3.6	3.6			0.1	−0.1		
給食の試食会を開催する	度数	287	468	755	0.000	3	47	50	1.000
	回答者 の %	51.8%	75.7%	64.4%		75.0%	61.8%	62.5%	
	調整済み残差	−8.5	8.5			0.5	−0.5		
地域の人々と食を通じて交流をする	度数	227	234	461	0.282	2	22	24	0.579
	回答者 の %	41.0%	37.9%	39.3%		50.0%	28.9%	30.0%	
	調整済み残差	1.1	−1.1			0.9	−0.9		
子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する	度数	165	198	363	0.411	1	21	22	1.000
	回答者 の %	29.8%	32.2%	31.1%		25.0%	28.0%	27.8%	
	調整済み残差	−0.9	0.9			−0.1	0.1		

表33　子どもの年齢構成別　希望するプログラムの内容

		子どもの年齢構成								χ^2検定
		0歳児	1・2歳児	0歳児と1・2歳児	3歳以上児	0歳児と3歳以上児	1・2歳児と3歳以上児	0歳児と1・2歳児と3歳以上児	合計	P値
絵本や紙芝居などで、親子で食に関する話を聞く	度数	9	170	17	295	23	145	5	664	0.013
	子どもの年齢構成の%	56.3%	64.9%	77.3%	53.9%	46.9%	59.7%	41.7%	57.7%	
	調整済み残差	-.1	2.7	1.9	-2.5	-1.6	.7	-1.1		
親子で調理体験する	度数	11	188	18	365	26	177	4	789	0.008
	子どもの年齢構成の%	68.8%	71.2%	81.8%	66.6%	53.1%	72.2%	33.3%	68.3%	
	調整済み残差	.0	1.2	1.4	-1.1	-2.3	1.5	-2.6		
親子で食べ物を育てたり、収穫する	度数	13	228	19	409	35	194	11	909	0.004
	子どもの年齢構成の%	81.3%	86.7%	86.4%	74.8%	71.4%	80.2%	91.7%	79.0%	
	調整済み残差	.2	3.5	.9	-3.3	-1.3	.5	1.1		
親同士で子どもの食について話し合う	度数	6	116	15	176	15	93	5	426	0.001
	子どもの年齢構成の%	37.5%	44.3%	68.2%	32.2%	30.6%	38.6%	41.7%	37.1%	
	調整済み残差	.0	2.7	3.1	-3.3	-1.0	.5	.3		
子どもの食について、相談・援助を受ける	度数	12	191	18	253	22	133	7	636	0.000
	子どもの年齢構成の%	75.0%	72.6%	81.8%	46.2%	45.8%	55.0%	58.3%	55.3%	
	調整済み残差	1.6	6.4	2.5	-5.9	-1.3	-.1	.2		
母乳・離乳食・幼児食などに関する講座を受ける	度数	12	157	15	165	17	77	3	446	0.000
	子どもの年齢構成の%	75.0%	60.2%	68.2%	30.3%	35.4%	32.0%	25.0%	39.0%	
	調整済み残差	3.0	8.0	2.8	-5.7	-.5	-2.5	-1.0		
子どもの食に関する情報をもらう	度数	15	234	21	423	38	191	9	931	0.001
	子どもの年齢構成の%	93.8%	89.0%	95.5%	77.3%	77.6%	78.6%	75.0%	80.8%	
	調整済み残差	1.3	3.8	1.8	-2.9	-.6	-1.0	-.5		
給食の試食会を開催する	度数	11	194	18	336	26	153	5	743	0.002
	子どもの年齢構成の%	68.8%	73.8%	81.8%	61.3%	54.2%	63.0%	41.7%	64.5%	
	調整済み残差	.4	3.6	1.7	-2.2	-1.5	-.6	-1.7		
地域の人々と食を通じて交流をする	度数	6	113	13	213	22	83	2	452	0.084
	子どもの年齢構成の%	37.5%	43.0%	59.1%	38.9%	45.8%	34.3%	16.7%	39.3%	
	調整済み残差	-.1	1.4	1.9	-.3	1.0	-1.8	-1.6		
子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する	度数	6	87	9	158	17	71	6	354	0.453
	子どもの年齢構成の%	37.5%	33.2%	40.9%	28.9%	35.4%	29.5%	50.0%	30.9%	
	調整済み残差	.6	.9	1.0	-1.3	.7	-.5	1.4		

能性が高いことが明らかになった。この時期は授乳期、離乳期、幼児食への移行期であり、子育て中の親にとっては、この時期の子どもの変化と食生活について、さまざまな迷いが生じている時期と考えられる。

3）子育て支援に関する活動・食育活動、食事についての意見・要望

今回のアンケート調査に当たり、回答者から多くの意見・要望が寄せられた。その中から、主なものをあげる。

①子どもの食行動について

・箸を使って食事ができるようにしたい。毎月の給食のメニュー、レシピを戴けると嬉しい。
・野菜嫌いを克服するためのメニュー、調理法を教えてほしい。
・子どもに食事の楽しさ、食べ物の大切さを教えてほしい。
・野菜嫌いを治すための、食事体験、調理体験等を知りたい。
・子どものクッキング体験をもっと増やしてほしい。
・親子での調理体験を増やして欲しい。
・右利きか左利きかまだ分からないので箸をもたせる手を決められない。(練習用の箸は右利き用、左利き用があるがどちらを買って良いかわからない)。

②親の食・育児行動について

・インターネットには食に関する情報が多いが、判断に迷う情報も多い。例えば牛乳はカルシウムが多く子どもの骨の成長に良い、一方では牛乳は生産過程で様々な成分が加えられており将来乳がんになる危険性が多いなどと情報が混乱している。
・食事メニューを入力すると、栄養バランスのチャートと足りない栄養素がわかるようなサイトが欲しい。
・子育てに合わせて親も人間として成長していかなければならないと思う。
・年齢にあった食べ物、食べ方、調理情報が欲しい。

③親の食知識・食・育児態度について

・私（父）はいつも忙しく、子育ての多くを妻に頼っているが、私の母が作ってくれた野菜たっぷりの味噌汁が忘れず、出勤する前に息子に味噌汁を作ってから出かける毎日である。

・核家族化が進み祖父母や近所付き合いが希薄化しているが、地域との交流の機会をもっと増やして欲しい。
・保育園の行事に参加したいが、仕事の関係で参加できない。保育所の食育活動に感謝
・講演会や講座には、いつも参加している。
・保育園からいろいろと良いアドバイスを戴いてもなかなか実行できないのが悩み。

④保育園の食育プログラムへのニーズ、プログラム内容への要望

・給食の試食会を早い段階で開催してほしい。年長児では遅すぎる。
・保育園での月別の旬の野菜を取り入れた給食、鮭など魚の解体ショーなどこれからも続けてほしい。
・食への感謝の気持ちがもてる活動をもっと増やして欲しい。
・保育園の給食で先生達が早く、早くとせかしているのが気になる。また、食べ終わった子ども達が食事中の子どものそばでバタバタしているのが気になる。
・保育園での子どもの食事中の様子をもっと教えてほしい。
・連絡帳に子どもの食事の様子、昼寝や便の様子、子ども達との関係など教えて欲しい。
・バランスのとれた食事メニューを知りたい。
・給食試食会はいつも参加しているが、もっと親子ふれあいの機会を増やして欲しい。
・子どもの食事についての面談､相談会の機会が欲しい。
・病児保育をもっと増やして欲しい。
・旬の野菜を取り入れた給食、鮭など魚の解体ショーなどこれからも続けてほしい。
・園で作った野菜を使った給食にはいつも感謝している。

⑤父親から寄せられた要望

父親	子供たちにとって安全な食事提供をお願いします。
父親	園では野菜を食べるようになってきているようです。家でもそうできるよう、食事に関して考えていきたいと思います。
父親	美味しい食事を提供すれば、子供ももっと食事に興味を持ってくれるかもしれないが、時間的に金銭的にも限界があり、その辺りが厳しく感じる。もっと食に興味を持つような取り組みがあれば、子供と共に参加したいと思います。
父親	子育ては親・保育園の共同作業です。保育園に預けている間は、保育園のやり方に基本的に賛同して預けているので自信を持って運営してください。一部のうるさい親などに言われたからコロコロやり方を変える必要はありません。
父親	保育園で食べている物の写真や、子どもの好き嫌いや、食べている時の様子など、見られない部分を知れると、考えの幅が広まるので幸いです。
父親	子どもが普段給食でどういった態度で行っているのか知りたいので親も同席できるような機会があればいいなと思う。また、どういった味のものを食べているのか、知りたい。
父親	食についての相談講座などの機会があれば参加したいと思っている。
父親	野菜嫌いを克服するためのメニュー、調理法を教えてもらえる場が欲しい。・食事メニューを入力すると、栄養バランスのチャートと足りない栄養素を教えてもらえるサイトが欲しい。・子連れで行きやすい（離乳食、乳児食がある、栄養バランスが良い）外食が増えると良い。
父親	好き嫌いないような、食事の作り方、食べさせ方を知りたい。また、安全な食材の選び方の情報共有ができればと思います。
父親	好き嫌いなく育てていきたいと考えています。
父親	好き嫌いのなくし方。また、子どもへの上手なすすめ方を教えてもらいたい
父親	好き嫌いをなくしていく方法、食事時の食べることに集中できるようになる方法、バランスよく食事をとる方法を教えて頂きたいです。
父親	好きなものばかり量を食べる傾向にあるので、野菜等は意識して食べさせています。
父親	年齢にあった食べ物、食べ方、調理情報の情報。
父親	まだ子どもが５ヶ月ですので、ミルクです。これから食事の事は学んで行きたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願い致します。
父親	全ての親が平等に大変な思いをしていると思います。子どもを育てることそれに合わせて親も日と人間として、成長していかなければなりません。食卓に並ぶものは、基本は各家庭にあるものなので、先ずは自身の管理を徹底するべきと思います。支援に関しては当人にしかわからない、事情があるので、なんとも言えませんが本当の支援とは、支援が必要な現状に立ち向かうことへの手助けと思っています。みんなが平等になるようにすることではないと思います。
父親	地域の農家さんの畑等で収穫するようなイベントがあるとよいと思います。
父親	野菜を育てる、その様子を見たら食べ物に興味を持つようになる。自分が育てた野菜をいただくなど食べ物を大切にする気持ちを持つことができるのでそうした活動を続けていただきたい。
父親	私（父）自身が「食」に関する仕事に就いています。朝から夜まで働いて土日が忙しい今現在です。子育ての大半が妻に頼っております。かつて私の母は毎日朝は野菜たっぷりの味噌汁を作ってくれました。おいしかった！今出勤する前に息子に味噌汁を作ってから出かけます。「今日も一日頑張れよ」

父親	子どもに食事の楽しさや、食べ物の大切さを教えていきたいです。
父親	子どもの食事について面談､相談会の機会が欲しい。食事の量について融通をきかせて欲しい（もっと多くして欲しい)。
父親	子育てにおいて食育活動の重要性は理解している。
父親	子供の家での食事について、いつもムラがあると感じています｡食べる時は良く食べてくれるのですが、食べない時はどんなに進めようが食べる事がありません。多分、保育園の方でもこんな感じだと思いますが、出来るだけ食べさせるよう、先生方の方にお願いしたいと思います。
父親	食べ物があたり前に有り、困らずに食ができる事のありがたみを教えてあげて下さい。

父親	食育活動は既成品が多いと思われるので、大変ですが手造りのものでお願いできれば良いかと思います。
父親	親子での調理体験を増やしてほしい。
父親	昔と今、良いこと良くない事が少し変化していると思います。現在の情報がもう少し知りたいです。
父親	核家族化が進み、祖父母やその世代のご近所つき合いが希薄化してきて、様々な大人と接する機会が減ってきているのが気になっています。保育園の先生方、友達…そのコミュニティーの中で色々学ぶ事も良いですが、それ以外のコミュニティーにどう接するか？その機会をもう少し作ってあげたいな…と思っています。

5．育児・食行動、親の食知識と食・育児態度、保育園の食育プログラムに対するニーズに対する父親と母親の特徴の一覧

大項目	中項目	小項目	質問文	選択肢	父親	母親	有意差	選択数
QOL	長期　QOL	自身の子育てについて	あなた自身は子育てが楽しいですか	とても楽しい	41.4%	33.5%	**	５肢選択
行動・ライフスタイル	育児への行動		あなた自身はどのくらい子育てに関わっていると思いますか	とても関わっている	17.5%	78.2%	***	５肢選択
		夫婦で育児の悩みを共有できる	パートナーはよく子育ての相談にのってくれていますか	とてもそう思う	45.6%	33.8%	***	６肢選択
			子育てや家事に今以上に関わりたいと思いますか	とてもそう思う	17.6%	25.0%	***	５肢選択
		育児参加内容(育児参加の頻度)	あなたは家庭での子育てで、どのようなことをしていますか	子どもを褒める	85.7%	98.1%	***	複数回答
				保育所の行事に参加する	71.7%	96.3%	***	
				食事を食べさせる	59.0%	91.0%	***	
				保育所のお迎えをする	46.5%	95.2%	***	
	家庭での食行動	食事のあいさつ	食事の時に「いただきます」を言いますか	ほとんど毎日する	67.0%	83.3%	***	５肢選択
			食事の時に「ごちそうさま」を言いますか	ほとんど毎日する	66.7%	82.5%	***	５肢選択
		食材の入手	食事の買い物をする	ほとんど毎日する 週に３～５回する	10.1%	55.5%	***	５肢選択
		食事の付随作業	食事のしたくをする	ほとんど毎日する	6.5%	79.8%	***	５肢選択
		食事の付随作業	食事の後片付けをする	ほとんど毎日する	26.8%	80.7%	***	５肢選択
		子どもとの共食	平日の朝、食事を子どもと一緒にする	ほとんど毎日する	29.9%	67.5%	***	５肢選択
			平日の夜、食事を子どもと一緒にする	ほとんど毎日する	27.4%	86.0%	***	５肢選択
		食情報の発信	メニューをリクエストする	ほとんど毎日する	2.5%	25.1%	***	５肢選択
			家族で食べ物を話題にしますか	ほとんど毎日する	8.0%	26.6%	***	５肢選択
			保育所の献立表を見る	ほとんど毎日する	2.1%	26.8%	***	５肢選択
育児・食に関する知識・態度	知識	子どもの食発達への理解	子どもの食事（成長の過程）について理解している	とてもあてはまる	3.8%	19.5%	***	５肢選択
		子どもへの食事援助の方法への理解	子どもへの食事援助の方法が分かる	とてもあてはまる	3.4%	16.3%	***	５肢選択
		体に良い食事構成への理解	子どものメニューを考えることができる	とてもあてはまる	3.6%	24.2%	***	５肢選択
	態度	食への関心	あなたは食べるのことが好きですか	とても好き	45.2%	53.6%	**	５肢選択
		お子さんの食事作りへの自信	お子さんの食事作りに自信がある	とてもあてはまる・あてはまる	15.1%	27.4%	***	５肢選択
			食事作りがつらいですか	とてもつらい・時々つらい	38.0%	74.1%	***	４肢選択
			お子さんのスプーン・箸の使い方が気になりますか	とても気になる	15.8%	13.7%	N.S.	５肢選択
	準備性	妊娠時　父親・母親学級等への参加	妊娠時、父親・母親学級等に参加した	とてもあてはまる	13.2%	46.9%	***	５肢選択
		自分の父親の子育てへの参加	自分の父親は子育てに積極的に関わっていた	とてもあてはまる	4.7%	12.6%	***	５肢選択
		自分の父親の食事づくりへの参加	自分の父親は食事作りに積極的に関わっていた	とてもあてはまる・あてはまる	13.2%	17.1%	N.S.	５肢選択
	態度	お子さんへの接し方・関わり方への自信	お子さんへの接し方・関わり方に自信がある	とてもあてはまる・あてはまる	39.6%	35.1%	N.S.	５肢選択
		親同士の繋がりへの意欲	保育所での親同士の繋がりを持ちたいと思う	とてもあてはまる	7.0%	14.5%	***	５肢選択
		親同士の繋がりの現状	現在、保育所での親同士の繋がりを持っている	とてもあてはまる	3.6%	9.8%	***	５肢選択

大項目	中項目	小項目	質問文	選択肢	父親	母親	有意差	選択数
保育園に期待する食育プログラムへのニーズ	プログラムの方法	食を通した親子の交流の場の提供	絵本や紙芝居などで、親子で食に関する話を聞く	欲しい	54.4%	60.6%	**	２肢選択
			親子で調理体験をする	欲しい	64.7%	71.9%	***	２肢選択
			親子で食べ物を育てたり、収穫する。	欲しい	81.0%	77.7%	N.S	２肢選択
			親同士で子どもの食について話し合う。	欲しい	33.9%	40.6%	**	２肢選択
			地域の人々と食を通じて交流をする	欲しい	41.0%	37.9%	N.S.	２肢選択
		子どもの食に関する相談・援助	子どもの食について、相談・援助を受ける	欲しい	50.3%	59.1%	***	２肢選択
		食に関する講習などの実施や情報提供	母乳・離乳食・幼児食などに関する講座を受ける	欲しい	30.8%	45.5%	***	２肢選択
			子どもの食に関する情報をもらう	欲しい	76.4%	84.7%	***	２肢選択
			給食の試食会を開催する	欲しい	51.8%	75.7%	***	２肢選択
		食育活動への利用者の主体的な参画	子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する	欲しい	29.8%	32.2%	N.S.	２肢選択
	希望する相談・アドバイスの内容	お子さんの食について相談したい、アドバイスをもらいたいと思う内容		栄養バランス	21.8%	44.3%	***	複数回答
				スプーン・箸の使い方	32.4%	37.0%	N.S.	
				食欲にむらがある	27.6%	37.7%	***	
対象者の属性	回答者	自身の状況について	あなたの現在の年齢	10・20・30代	69.3%	78.3%	***	５肢選択
			あなた自身の朝食を食べないことがありますか。	ある	21.0%	6.2%	***	２肢選択
			あなたの現在のお仕事は	フルタイム	97.3%	53.7%	***	５肢選択

χ^2検定，調整済残差±２以上の選択肢

６．子育て支援の成果と、食育の成果、食育プログラムとの関連

子育て支援の成果と、食育の成果、食育プログラムとの関連について相関分析を行った。

「お子さんへの接し方・関わり方への自信」と有意な相関がみられた食育プログラムの内容は「親子で食べ物を育てたり、収穫する」「親同士で子どもの食について話し合う」「子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する」であった。

また、食育の成果として、「お子さんの食事作りへの自信」「食事づくりの負担感」「子どもの食発達への理解」「子どもへの食事援助の方法の理解」「食事構成の知識」の全ての項目に有意な相関がみられた内容は、「親子で調理体験する」「親同士で子どもの食について話し合う」「給食の試食会を開催する」「子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する」であった。

特に、父親を対象とした場合には、参加ニーズの高かった「親子で食べ物を育てたり、収穫する」「親子で調理体験する」「子どもの食について話し合う」が子育てに対する楽しみと有意な相関がみられた。また､反対に、表29にあるように、父親からの参加ニーズが高くはなかった「親同士で子どもの食について話し合う」｢母乳・離乳食・幼児食等に関する講座を受ける」は子どもへの接し方、関わり方への自信と有意な相関がみられた。一方、「親子で調理体験する」「親同士で子どもの食について話し合う」「子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する」は食育の成果との関連が強かった。しかし､｢給食の試食会の開催」については父親のみを対象とした場合には、子育て・食育の成果との関連が有意ではなかった。表18の「給食の献立表を見る」こと等を父親があまり実施していない実態から、試食会の内容が単なる給食の試食だけではなく、園での食事と家庭での食事をつなげ、食事場面での援助の方法や家庭で実践しやすい「母乳・離乳食・幼児食等に関する講座を受ける」や具体的な実践例を模索できる「親同士で子どもの食について話し合う」等の活動にすることが有効であることも推察された。地域との連携をみれば、「地域の人々と食を通じて交流をする」と食事構成の知識、食事づくりへの自信と有意な関連もみられた。

食に関する具体的な知識・スキルの習得と共に、食を通した人的ネットワークの拡大を目指すことで、ひいては「子どもへの接し方・関わり方」そして、「子育ての楽しさの認知」につながっていく可能性がある。特に、父親は親への活動のリクルートの段階で、親同士の交流を表面立てるのではなく､調理する体験､食べ物の栽培・収穫体験を推し進める中で、結果として、親同士の交流を推進していくことが子育て支援として、食育としても有効である可能性が高い。

現代社会の中では、都会でも地方でも、特別に意識をしていないと安全・安心・健康な食生活を過ごすことが困難になっている。現在の子育て世代の「食」に関する経験を広げるための情報提供は不可欠であるが、保育所からの情報発信には、限度があると思われるため、保育所でも、地域や他の専門機関とも連携することが重要である。食に目を向ければ、必ず食の生産・流通の場等の社会環境、自然環境といった風土ともつながらざるを得ない。地域との連携した食育活動は、食育への父親の関わりを喚起し、充実させていくためになお必要であると考える。

Ⅳ．考察

本研究では保育園児の保護者、特に父親に焦点をあてつつ、親の育児・食行動、親の食知識と食・育児態度、

表33 子育て支援の成果と、食育の成果、食育プログラムとの関連

			子育てに対する楽しみ	お子さんへの接し方・関わり方への自信	お子さんの食事作りへの自信	食事づくりの負担感	子どもの食発達への理解	子どもへの食事援助の方法の理解	食事構成の知識	絵本や紙芝居などで、親子で食に関する話を聞く	親子で調理体験する	親子で食べ物を育てたり、収穫する	親同士で子どもの食について話し合う	子どもの食について、相談・援助を受ける	母乳・離乳食・幼児食などに関する講座を受ける	子どもの食に関する情報をもらう	給食の試食会を開催する	地域の人々と食を通じて交流をする	子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する
子育て支援の成果	子育てに対する楽しみ	Pearson	1.000																
		有意確率																	
	お子さんへの接し方・関わり方への自信	Pearson	.356**	1.000															
		有意確率	.000																
食育の成果	お子さんの食事作りへの自信	Pearson	.112**	.390**	1.000														
		有意確率	.000	.000															
	食事づくりの負担感	Pearson	-.096**	-.062*	.317**	1.000													
		有意確率	.001	.033	.000														
	子どもの食発達への理解	Pearson	.113**	.304**	.476**	.246**	1.000												
		有意確率	.000	.000	.000	.000													
	子どもへの食事援助の方法の理解	Pearson	.055	.278**	.483**	.239**	.704**	1.000											
		有意確率	.058	.000	.000	.000	.000												
	食事構成の知識	Pearson	.039	.192**	.675**	.456**	.597**	.663**	1.000										
		有意確率	.186	.000	.000	.000	.000	.000											
食育プログラム	絵本や紙芝居などで、親子で食に関する話を聞く	Pearson	.074*	.024	.030	.073*	.023	.017	.006	1.000									
		有意確率	.011	.419	.303	.013	.423	.555	.826										
	親子で調理体験する	Pearson	.088**	.055	.093**	.069*	.088**	.077**	.106**	.341**	1.000								
		有意確率	.002	.061	.001	.019	.003	.009	.000	.000									
	親子で食べ物を育てたり、収穫する	Pearson	.123**	.074*	.018	-.004	.019	.006	.004	.305**	.454**	1.000							
		有意確率	.000	.012	.532	.905	.510	.828	.896	.000	.000								
	親同士で子どもの食について話し合う	Pearson	.071*	.062*	.101**	.078**	.096**	.078**	.105**	.428**	.339**	.253**	1.000						
		有意確率	.015	.035	.001	.008	.001	.008	.000	.000	.000	.000							
	子どもの食について、相談・援助を受ける	Pearson	.071*	.002	.017	.097**	.038	.011	.035	.344**	.265**	.227**	.478**	1.000					
		有意確率	.016	.944	.557	.001	.197	.719	.239	.000	.000	.000	.000						
	母乳・離乳食・幼児食などに関する講座を受ける	Pearson	.020	.040	.065*	.156**	.033	.074*	.097**	.285**	.225**	.179**	.344**	.483**	1.000				
		有意確率	.493	.177	.027	.000	.261	.012	.001	.000	.000	.000	.000	.000					
	子どもの食に関する情報をもらう	Pearson	.090**	-.024	.043	.119**	.043	.024	.057	.309**	.189**	.243**	.259**	.407**	.319**	1.000			
		有意確率	.002	.415	.143	.000	.146	.419	.051	.000	.000	.000	.000	.000	.000				
	給食の試食会を開催する	Pearson	.003	-.018	.088**	.197**	.127**	.145**	.177**	.302**	.318**	.217**	.275**	.295**	.307**	.292**	1.000		
		有意確率	.910	.539	.003	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000			
	地域の人々と食を通じて交流をする	Pearson	.016	.013	.061*	.002	.071*	.059*	.048	.299**	.292**	.234**	.396**	.254**	.260**	.224**	.288**	1.000	
		有意確率	.574	.662	.039	.933	.015	.046	.099	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000		
	子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する	Pearson	.059*	.079**	.156**	.015	.096**	.109**	.122**	.320**	.301**	.218**	.445**	.268**	.324**	.199**	.290**	.519**	1.000
		有意確率	.043	.007	.000	.611	.001	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	

**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）。

*. 相関係数は 5% 水準で有意（両側）。

表34 子育て支援の成果と、食育の成果、食育プログラムとの関連（両親家族の父親）

			子育てに対する楽しみ	お子さんへの接し方・関わり方への自信	お子さんの食事作りへの自信	食事づくりの負担感	子どもの食発達への理解	子どもへの食事援助の方法の理解	食事構成の知識	絵本や紙芝居などで、親子で食に関する話を聞く	親子で調理体験する	親子で食べ物を育てたり、収穫する	親同士で子どもの食について話し合う	子どもの食について、相談・援助を受ける	母乳・離乳食・幼児食などに関する講座を受ける	子どもの食に関する情報をもらう	給食の試食会を開催する	地域の人々と食を通じて交流をする	子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する
子育て支援の成果	子育てに対する楽しみ	Pearson	1.000																
		有意確率																	
	お子さんへの接し方・関わり方への自信	Pearson	.342**	1.000															
		有意確率	.000																
食育の成果	お子さんの食事作りへの自信	Pearson	.094*	.308**	1.000														
		有意確率	.026	.000															
	食事づくりの負担感	Pearson	.003	.042	.450**	1.000													
		有意確率	.935	.329	.000														
	子どもの食発達への理解	Pearson	.164**	.307**	.368**	.129**	1.000												
		有意確率	.000	.000	.000	.002													
	子どもへの食事援助の方法の理解	Pearson	.067	.276**	.379**	.108*	.631**	1.000											
		有意確率	.117	.000	.000	.011	.000												
	食事構成の知識	Pearson	.080	.216**	.687**	.348**	.465**	.565**	1.000										
		有意確率	.060	.000	.000	.000	.000	.000											
食育プログラム	絵本や紙芝居などで、親子で食に関する話を聞く	Pearson	.129**	.033	.009	.087*	.021	-.008	-.027	1.000									
		有意確率	.002	.435	.835	.041	.621	.857	.534										
	親子で調理体験する	Pearson	.131**	.039	.091*	.084*	.060	.040	.089*	.348**	1.000								
		有意確率	.002	.358	.032	.049	.162	.355	.037	.000									
	親子で食べ物を育てたり、収穫する	Pearson	.090*	.078	-.015	.079	.030	-.014	-.005	.335**	.422**	1.000							
		有意確率	.035	.066	.730	.064	.476	.744	.898	.000	.000								
	親同士で子どもの食について話し合う	Pearson	.087*	.102*	.154**	.108*	.090*	.055	.112**	.428**	.407**	.298**	1.000						
		有意確率	.041	.016	.000	.011	.035	.197	.009	.000	.000	.000							
	子どもの食について、相談・援助を受ける	Pearson	.111**	-.001	.013	.050	.027	-.027	.003	.397**	.291**	.275**	.514**	1.000					
		有意確率	.009	.987	.760	.242	.528	.523	.952	.000	.000	.000	.000						
	母乳・離乳食・幼児食などに関する講座を受ける	Pearson	.066	.089*	.085*	.107*	.013	.059	.045	.286**	.213**	.190**	.358**	.463**	1.000				
		有意確率	.123	.038	.048	.013	.761	.168	.291	.000	.000	.000	.000	.000					
	子どもの食に関する情報をもらう	Pearson	.110**	.000	.048	.124**	.053	-.017	.035	.345**	.202**	.268**	.240**	.437**	.330**	1.000			
		有意確率	.010	.991	.263	.004	.214	.693	.420	.000	.000	.000	.000	.000	.000				
	給食の試食会を開催する	Pearson	.011	.013	.049	.068	.028	.063	.055	.349**	.321**	.261**	.337**	.291**	.324**	.270**	1.000		
		有意確率	.790	.755	.256	.110	.511	.143	.200	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000			
	地域の人々と食を通じて交流をする	Pearson	.025	.023	.102*	.063	.078	.054	.090*	.325**	.331**	.243**	.434**	.268**	.307**	.262**	.406**	1.000	
		有意確率	.556	.585	.017	.139	.068	.206	.035	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000		
	子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する	Pearson	.070	.066	.165**	.053	.090*	.108*	.140**	.319**	.324**	.233**	.472**	.305**	.400**	.245**	.373**	.534**	1.000
		有意確率	.100	.120	.000	.217	.034	.012	.001	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	

**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）。

*. 相関係数は 5% 水準で有意（両側）。

さらに、保育園の食育プログラムに対するニーズの検討を行った。

1．親の育児行動と食知識・態度の特徴

両親家族の場合、父親は母親に比べ、次のような特徴がみられた。子育てへの関わりは少ないものの、子育てを楽しいものとして捉え、母親以上に子どもへの接し方・関わり方に自信があることが明らかになった。両親家族で父親が関わっている内容として上位にあげられたのは「子どもを褒める」「お風呂に入れる」「子どもと室内で遊ぶ」「子どもを叱る」「子どもと室外で遊ぶ」「保育所の行事に参加する」の順で父親の８割が関わっていたが、「病気の時に面倒をみる」「保育園への送り迎えをする」「子どもを寝かしつける」「掃除をする」「食事を食べさせる」は６割以下に留まった。こうした傾向は及川ら[9]、ベネッセ教育総合研究所等の調査[2,10-12]での傾向と同様であった。「食」に関しては、子どもと一緒に食事を食べたり、買い物をする等の食行動・食態度が消極的であり、特に食事のメニューをリクエストしたり、食べ物を話題にしたり、保育所の献立表を見る等の行動をしている人は多くなかった。また、子どもの食発達、食事援助の方法、食事構成への理解や、食事づくり行動に対する自信も、母親に比べ、かなり低いことが分かった。

子どもと一緒に食べる、いわゆる共食についてみると、朝食の欠食は父親で21％と、平成26年国民健康栄養調査の結果（男性　20歳代37.0％、30歳代29.3％、40歳代21.9％）と比較するとやや少ない傾向であったが、子どもとの朝食の共食について「ほとんど毎日」が29.9％、「ほとんど共食しない」が44.4％もみられた。會退ら[14]は朝食の子どもとの共食と父親の育児参加と大きく関連し、父親の育児参加が積極的である程、朝食での子どもとの共食度も高くなる可能性を指摘している。忙しい朝の時間帯での共食は母親と子どもだけの問題ではなく、父親も大きく関与してくるのは当然であろう。

ところで、親になる準備として、「食」に関する内容はどのようにしていったらよいのであろうか。子育て全般と違い、「食」については子育て世代になる前から関わることができる。「食の生涯発達、ライフコース」とでもいうべきものを見通すことが親準備性を高めることができるのかもしれない。本調査では「自分の父親の子育てへの参加」に比べ、「自分の父親の食事づくりへの参加」は若干認知度が低かった。子育てへの参加というと、自分の年少の時期を想定し、過去の記憶をたどるが、食事づくりは現在の食のかかわりが加味されていることも推測できる。言い換えれば、子育て中でない男性でも、子育て世代の父親の食事づくりのモデルになることが可能なのかもしれない。

及川ら[9]は、本来、自分でやるべきことではない不慣れな育児、というやらされ意識のジレンマやストレスを父親自身が発散できる場、相談する場が少なく、育児する父親を孤立させているのではないだろうかと指摘する。そうしないためには、先輩パパや、思いを共有できるパパ友達との交流の場を提供し、多くの意見を交わし、孤立感を軽減していくことが大切であり、現在の子育てに即した新たな父親モデルを模索する機会を提供する必要があることが報告されている。

今現在の子育て世代は、父親の子育て態度や、父親が食事を作るなどの姿に接する機会が少なく、父親が子育てや食事作りに関わるモデルが想像できないとも考えられる。従って、より身近に具体的なノウハウを習得する場が必要であろう。

2．保育所での父親に焦点をあてた食育プログラムの内容

本調査結果において、母親以上に父親で希望が多かった内容は「食べ物を育てて収穫する」ことであった。それ以外にも「食に関する情報をもらう」「親子で調理体験をする」は６割以上の父親が、「給食の試食会」も半数以上の父親から希望が寄せられた。さらに、「地域の人々と食を通じて交流する」ことは上位ではなかったが、母親と同等にニーズが寄せられ、こうした内容を盛り込んだプログラムにすることが期待されていることが明らかになった。また、子どもの対象年齢と関連してみると、ほとんどの項目において、３歳以上児の親よりも、１、２歳児の親からのニーズが高いことが明らかになった。自由回答の中でも、「体験活動や給食試食会をもっと小さな年齢から開いて欲しい」という記述も見受けられた。「食に関する情報をもらう」といった情報へのニーズだけでなく、「食べ物を育てて収穫する」「親子で調理体験をする」「給食試食会を開催する」などの体験活動も同様であった。食に関して最も関心が高いのは子どもが３歳未満の頃であり、その時点での支援が有効である可能性が高いことが明らかになった。

父親にとって、子育てを楽しむ場として、「親子で食べ物を育てたり、収穫する」「親子で調理体験する」「子どもの食について話し合う」ことがそのきっかけとなること、また、子どもへの接し方、関わり方への自信を高めるために「親同士で子どもの食について話し合う」「母乳・離乳食・幼児食等に関する講座を受ける」等が有効である可能性が示唆された。一方、食育との関連性が高かった内容に、「親子で調理体験する」「親同士で子どもの食について話し合う」「子どもの食育活動の企画・運営に親が参加する」ことがあげられた。

父親が「給食の献立表を見る」こと等をあまりしていないという本結果から、試食会の内容も単なる試食だけではなく、食事場面での援助の方法や家庭で実践しやすい「母乳・離乳食・幼児食等に関する講座を受ける」や具体的な実践例を模索できる「親同士で子どもの食について話し合う」等を盛り込んだ活動にすることが有効で

あることも推察された。さらに、「地域の人々と食を通じて交流をする」ことと、食事構成の知識、食事づくりへの自信との関連が大きかったことから、これらの活動によって、食を通した人的ネットワークの拡大を目指すことが有効な手段である可能性も推察された。

地方公共団体における父親を対象とした子育て支援事業を分析した岡田ら[15]の報告には、子どもと一緒の活動では遊びの他に、工作、体操、クッキングがあり、その他にも離乳食講座等の学習会や、料理教室のような自分自身の活動が実施されていることが示されている。近年では、学習会や講演会が少なくなり、子どもと一緒に遊んだり、工作をしたり、父親同士の情報交換をしたり、父親参加型の能動的なワークショップに変化していることが報告されている。

父親に対する子育て支援プログラムやサークルは、週末を子どもと父親で楽しむという「子育てのレジャー化」が多く見受けられ[16]、イベント的で補助的な育児支援が典型的である。今後は父親に家事や育児の具体的な内容や手順を示していく取り組みを積極的に位置づけるべきであることも示唆される[17]。野津山ら[18]は福山大学での料理づくりを含んだ活動から「家でも作ってみようと思った」などの意見が出され、家庭において実践が可能な育児支援につながったとの報告もある。

食のソーシャルサポートの視点から、寺田[19]は「食事づくりのつらさ感」を軽減・解消するために、「地域で近所の親子が集まって食べる場」という相互扶助による共同子育てが解決の道となる可能性を示唆する。松島[20]も友人との共食に育児サポート効果があることを報告している。これらの研究はいずれも母親の子育ての孤独化、つらさ感の軽減が目的である。しかし、本研究の結果をみると、「食事づくりのつらさ感」について６割の父親が「苦にならない」と回答している。こうした共食の場の提供が父親でも有効であるのか否かは検証していく必要があるであろう。

一方で、本結果から父親が母親に比べて、親同士の交流を望んでいない傾向も明らかになった。母親による子育て支援プログラムの評価を行った研究では、「他の親と知り合えた」「親子ともに人間関係が広がった」などの利用者のネットワークが広がったことを評価している(野原・宮城[21]，蕨岡・亀島[22])。育児ストレスを軽減するための子育て支援の一つとして、専門的な援助とともに、親の人的ネットワークの拡大を目指すことが、父親の場合にも効果的であるのか否かの検証も必要である。したがって、父親を対象とした場合、募集する段階で、親同士の交流を表面立てるのではなく、調理体験をしたり、食べ物の栽培・収穫体験を推し進める中で、結果として、親同士の交流を推進していくことが子育て支援としても、食育としても有効である可能性が高いことも推察された。

保育所の保護者のように共働き家庭の場合、休日は家族で過ごしたいと考えるのが一般的であろう。つまり、仕事の疲れをいやしたいのもあるが、たまの休みに子育ての学習をしたいとは思わないのではないだろうか。「イクメン」という響きに必ずしも共感できない男性たちも多いだろう。そうした男性に、参加してみたいというモチベーションを持たせるコンテンツが必要だといわれる[23]。「父親教室」は、孤立した親が他の親と知り合う場をつくる、いわゆる父親同士のネットワークキングの場としては機能しておらず、「子育て主体者」から「地域活動の主体者」へとの広がりは見られない。その背景には「父親教室」が母親と比較して1クールの回数が少ないためであるともいわれる[24]。保育所のように複数回の実施が可能な場合には、「食を通した活動」が父親のネットワーキングの引き金になる可能性も多いにあるであろう。ましてや、日常的に親が関わっている保育所だからこその効果が得られることを期待したい。幼稚園の「おやじの会」に実際に参加した父親からは、子ども同士の活動を見ることによって、子どもの新たな面を発見できたという発言がなされている[26]。どのような効果を、活動の成果とみなすのか、十分な検討が必要である。

現在では、父親だけでなく、母親自身も子育てや食に関する知識や体験が不足している。子どもたちを取り巻く問題に的確に対応していくためには、保育所をはじめとした多様な社会資源が教育力を総合的に向上させていくことが課題である。そのため、保育所が給食とそれを食べる場を継続的に提供しているという特徴を活かした活動を家庭にむけて展開し、家庭の中に還流させることにより、子ども自身の育ちを支えるだけでなく、同時に保護者が意欲を持って生き生きと子育てし続ける力、そして生き生きと生活していく力を育むことを目指したい。

引用文献

１）柏木惠子編著：父親の発達心理学，川島書店（1993）
２）ベネッセ教育総合研究所：第３回　乳幼児の父親についての調査，(2014)
３）青野篤子：「男性の子育て」支援の現状と課題，福山大学こころの健康相談室紀要，3,9-14（2009）
４）金山 美和子：男性の育児を促進する子育て支援の検討：上越市における実践事例を通して，上田女子短期大学紀要27,1-9（2004）
５）金山 美和子：男性の育児を促進する子育て支援の検討⑵：地域子育て支援の利用状況調査から，上田女子短期大学紀要28,93-100（2005）
６）鈴木 順子：父親の子育て支援に関する研究：地域子育て支援センターを利用する父親を対象として，金城学院大学論集．人文科学編８⑴,124-133（2011）
７）酒井治子：子育て支援のための地域における食育の取り組みの分析・評価に関する研究,こども未来財団（2009）
８）厚生労働省：保育所保育指針（2008）
９）及川裕子，宮田久枝，新道由記子，登日麻並:現代日本

における男性と出産・育児,園田学園女子大学論文集,第46号，43-58（2012）
10）世田谷区保育親の会：世田谷区内認可保育園及び父母の会アンケート調査結果報告書，19（2011）
11）株式会社 マーシュ：男性の育児参加に関するアンケート，http://www.marsh-research.co.jp/examine/ex2102.html(2009)
12）時事通信社：父親の育児参加に関する世論調査（2011）
13）厚生労働省：平成25年国民健康栄養調査結果（2015）
14）會退友美，市川三紗，赤松利恵：幼児の朝食共食頻度と生活習慣および家族の育児参加との関連，栄養学雑誌69(6)，304-311（2011）
15）岡田みゆき，伊藤葉子，一見真理子：地方公共団体における父親の子育て支援，日本家政学会，65(10)，587-597（2014）
16）田中結花子：父親の子育て意識と子育て支援―父親の子育てサークル参加が家族に与える影響の実態調査からの考察―，医学と生物，153(8)，292-301（2009）
17）大元千種：父親の育児参加とその支援について，筑紫女学園・筑紫女学園大学短期大学部紀要,5,187-196(2010)
18）野津山希，佐藤勢子，中浜千明，青野篤子：「男性の子育て」支援プログラムの実践的研究，福山大学こころの健康相談室紀要，5，19-26（2011）
19）寺田恭子：親が抱く「食事づくりのつらさ感」をサポートする地域の役割と課題―「１歳６か月健診時の子育て当事者調査」結果からの考察―，日本家政学会誌Vol.65，No.2，64-72（2014）
20）松島悦子：子育て期の母親が友人と行う「共食」の実態と効果―料理への関心と、ネットワーク形成に関する考察―，日本家政学会誌，Vol.55，No.10，785-797（2004）
21）野原真理，宮城重二：保育所における地域子育て支援事業への評価：母親の育児に関する意識および行動の変化，女子栄養大学紀要　36，63-69，2005-12-01
22）蕨岡幸一，亀島信也：子育て支援教室を母親はどのように評価しているか，関西福祉科学大学紀要　9，249-258（2006）
23）斎藤嘉孝：父親・祖父母対象の公的プログラムのあり方についての検討―家庭教育支援事業における父親教室・祖父母教室―法政大学キャリアデザイン学部紀要　10，93-108（2013）
24）冬木春子：少子化対策における「父親支援策」―自治体による「父親教室」に着目して－，静岡大学教育学部研究報告．人文・社会科学篇　57，91-105（2007）
25）斎藤嘉孝：ペアレンティング・プログラム実施者にむけた実践的示唆―行政による父親むけプログラムに関する全国調査の結果から―生涯学習とキャリアデザイン，12(1)，101-107（2014）
26）須田康之，宮元博章，堀端優也［他］，小林禎明，長谷拓郎，大島秀子，青平：おやじの会という連携のかたち：兵庫教育大学三校園『おやじの会』の事例をもとに，兵庫教育大学研究紀要　45，1-8，2014-09